

生物質量の眞実
第二卷
宇宙文明考

目次	もくじ	1
表紙	ひょうし	2
目次	もくじ	5
歩いてみれば	ある	6
見回すと	みまわ	11
証明できない公理	しょうめい	16
太古の遺跡	たいこ	19
もとの英知	えいち	26
無理は無理	むり	31
その世界	せかい	32
自由について	じゆう	39
自由と別室	べつしつ	44
自由と時空	じゆう	48
自由と宇宙	うちゆう	52
霊界物語に出ていながら出ていないこと	れいかいものがたり	

場力ばかのイメージ

命いのちと心こころ

善悪ぜんあくを判断はんだんするネット

ないものはない

誤差ごさが生はじさせる問題もんだい

先史せんしの遺産いさん

成なり立たたない三五教あなないきよう

テオクラシーとアルケミー

房中ぼうちゆう

実際じっさいの誤差ごさ

後記こうき

90 87 86 83 80 77 73 67 64 63 58

歩いてみれば

見回す^{みまわ}と

有限^{ゆうげん}の宇宙^{うちゅう}の中で生きて^いいる。限りある^{かぎ}寿命^{じゅみょう}の中で死^しんで行く。死^しんだ者の^{もの}その体^{からだ}は、分解^{ぶんかい}してしま^うう。そしてまた新^{あらた}しい命^{いのち}の体^{からだ}になり受^うけ継^{つぎ}がれていく。それは完結^{かんけつ}した連鎖^{れんさ}であり循環^{じゅんかん}して^いるとい^うふう^にに認識^{にんし}して^いる。生命^{せいめい}は誕生^{たんじょう}し猿^{さる}が進化^{しんか}して人間^{にんげん}にな^ったと有史^{ゆうし}進化^{しんか}論^{ろん}は説^とく。確^{たし}かに人間^{にんげん}の蓄積^{ちくせき}した知識^{ちしき}を分類^{ぶんれい}し整理^{せいり}して見^みた通^{とお}りだ。その通^{とお}りにな^って^いる。そう言^いった観^{かん}察^{さつ}は人間^{にんげん}の作^{つく}った社会^{しゃかい}制度^{せいど}にも広^{ひろ}がる。そうして法^{ほう}治^ち国家^{こっか}や議^ぎ会^{かい}政治^{せいじ}などが生^{しょう}じた。

それは上^う手^まく^いか^ないと別^{べつ}の手法^{しゅほう}を試^{こころ}みる。そうして試^し行^{こう}錯^{さく}誤^ごの上^うに上^う手^まく^いく^ように作^{つく}り直^{なお}して出来^{でき}上^あが^つた。その場合^{ばあい}にはこ^うう。あの場合^{ばあい}にはこ^うう。という抜^ぬけ道^{みち}の地^ち図^ず作^{つく}りである。どうい^う事^じ態^{たい}にも対^{たい}処^{しょ}で^きる^ように試^し行^{こう}錯^{さく}誤^ごして出来^{でき}上^あが^つて^いる。力^{ちから}の領^{りやう}域^{いき}は観^{かん}察^{さつ}した通^{とお}りだ。そうい^うふう^にに出来^{でき}て^いる。地球^{ちきゅう}人^{じん}が認識^{にんし}した成^{なり}立^{たち}は、場^ばの領^{りやう}域^{いき}での連鎖^{れんさ}の循環^{じゅんかん}が力^{ちから}に現^{あらわ}れたもの^だ。完全^{かんぜん}無^む欠^{けつ}の連鎖^{れんさ}の循環^{じゅんかん}が現^{あらわ}れたの^だから力^{ちから}でも連鎖^{れんさ}の循環^{じゅんかん}が現^{あらわ}れる。

現^{あらわ}れたシス^しテム^{てむ}を人^{じん}類^{るい}は観^{かん}察^{さつ}した。力^{ちから}に現^{あらわ}れた場^ばを観^{かん}察^{さつ}し問^{もん}題^{だい}を回^{かい}避^ひする抜^ぬけ道^{みち}を見^みつけた。そして問^{もん}題^{だい}を回^{かい}避^ひするその抜^ぬけ道^{みち}を繋^{つな}いで知^ち識^{しき}を作^{つく}り機^き械^け化^か物^{ぶつ}質^{しつ}文^{ぶん}明^{めい}を築^{きず}いた。抜^ぬけ道^{みち}を繋^{つな}いだ法^{ほう}律^{りつ}や知^ち識^{しき}やお金^{かね}で問^{もん}題^{だい}は解^{かい}決^{けつ}しな^い。力^{ちから}を観^{かん}察^{さつ}して間^{かん}接^{せつ}的^{てき}に場^ばを鑑^{かん}みる。場^ばが循環^{じゅんかん}すれば力^{ちから}も循環^{じゅんかん}する。それを観^{かん}察^{さつ}し、力^{ちから}で抜^ぬけ道^{みち}を見^みつける。それで問^{もん}題^{だい}を回^{かい}避^ひしてきた。間^{かん}接^{せつ}的^{てき}に場^ばを観^{かん}察^{さつ}すること^で力^{ちから}の循環^{じゅんかん}の知^ち識^{しき}が出来^{でき}上^あが^つた。

地球^{ちきゅう}人^{じん}はお金^{かね}を発^{はつ}明^{めい}しその流^{なが}れは力^{ちから}の領^{りやう}域^{いき}を循環^{じゅんかん}する。お金^{かね}は地球^{ちきゅう}を覆^{おほ}い尽^{つく}くし飲^のみ込^こみ

んだ。お金の循環が行詰ると人類は力を観察して場の循環と同じ循環を模索して抜け道を
見つけて新しい循環ルートを構築して来た。地球人は力の領域を観察し行詰ると試行錯誤
を繰り返して抜け道を見つけ新たなルートを開拓してきた。そして力の循環を円滑に行うた
めに知恵を絞りお金を循環させ金融市場を作った。為替や株は二十四時間、休みなく動き
地球を覆う。

地球人が力の領域に築いた閉鎖市場の上に築かれた循環システムは、常にお金を必要とし、
お金を生み出すために地球人類は活動している。地球人類が生み出したこのサイクル
はシステムを維持するために常に天然の消費を前提とする。お金を生み出すために天然を
消費し商品を生産するために消費しゴミになっても消費する。

力の領域の天然の循環システムを観察した。地球人類はそうかそうなってるのかとシス
テムを築いた。そのシステムは問題があってもそれを回避するように出来ている。行詰ると
別のルートを探す。それを繰り返した。そのため地球にはもはや新たに開拓出来るルー
トは無くなりつつある。回避出来ない問題も出てきた。問題を先送りするしかたでは成り
立たなくなりつつある。蓄積した問題が問題を生み出し回避出来ない事態が生じた。

力で観察はするが場を見ない。物質と認識する。たしかに物質で出来ているという認識
は宇宙の成り立ちを説明出来た。だが力の領域以外に説明出来ない。時空間の範囲が宇宙
の地平線より内側の範囲を説明出来た。試行錯誤を繰り返し経験と蓄積し解析するが未知
に遭遇するたびに新しい抜け道を探す物質の科学では未発見の未知に対応出来ない。さあ
どうしようというとき何も出来ない。企業の活動がその典型だ。お金を儲ける。それは場
の循環の理を試行錯誤で探し、その理に沿うようにお金を動かす。

人間はお金を動かし天然の循環の理に沿うように活動する。お金儲けを奨励し場の循環のサイクルが変動すれば即座にお金の循環を対応させる。なら、結構なことではないか。人間の英知は機敏に場の変化を読み、人間の動きを予想し先手を打つ。だが未発見の未知に対応出来ない。問題の解決は出来ない。地球人の英知が生み出した宗教の神霊も科学の物質という考えも力の領域だ。場や無限を考えない地球人が現れる事態を古代の賢者明哲は予想し現代人に警告した。

それが宗教の起源だ。やがて宗教団体が出来てその教義が神霊という概念を説くようになる。そして教義を守ることが信仰になる。協議の説く神霊を祭るようになり、宗教画や拝礼施設が出来る。やがてそれを束ねる管理者が大きな富や権威を持つ。だがそのやり方は神霊を信仰しても効果がないことを皆が知って行詰っている。

何故なら賢者明哲が説いたのは神霊でも物質でもない、生物質量だ。場と力だ。地球人の英知は力でしかないお金を生み出した。お金は力でしか働かない。お金の循環は力でしかない。お金を循環させるためには人間が循環させるしかない。お金は場と相互作用しない。確かにお金を使つて場と同期しないわけではない。同調するかもしれない。だが共鳴が起こることはまずない。お金は物質だ。お金は人間が動かさないと動かない。お金を動かす人間が場との連動を考えれば確かに共鳴が起こるかもしれない。

だが今の地球の社会制度は力の領域だけで出来ている。当然使われるお金も力で稼いで力を使う。なんでもかんでも力だけ、力が第一ということになる。ところが地球人はお金の動きを場と連動させようとはしない。地球人は地球の上で安く買って高く売ってお金儲けを競い合っている。場と力の呼吸に生甲斐を見出すのではない、金儲けに生甲斐を感じ、

人生は力の老廢物にまみれ汚れて行く。

人生、一度も場と連動することもない。そういつた社会制度が出来ている。地球上で生産されるすべてのものは力であり場の裏付けがない。家にしろ雨風を防ぎ暖を取り一家団欒するのが、それが家だ。だがそれをして場と力を最適化しようとしなない。家の壁があつても、場力を考えて壁が出来てない。工場で働く。確かに尊い。場力を考えて工場は出来ていない。家にしろ団欒にしろ場力を考えて出来ていない。

現在の地球の知識は、有史以降の蓄積である。例えば一万二千年前の氷河期が終わり、そこから土器や新石器が始まりやがて文明が起こったということになっている。その文明も栄枯盛衰を繰り返して、近代西欧文明が地球を席卷する。現在の日本でも海外の国でも、有史以前の人類の記憶を引き継いではいない。有史以前の文明の記憶が断絶している。かつての古代人の英知を引き継いではいない。わずかにホビに伝わるぐらゐのものだ。

人類や宇宙の起源も太古からの正確な記録も継承していない。宇宙文明に伝わる場と力の関係の口伝や、最初から完全な宇宙文明を一式携えて場からこの宇宙に移民し、星から星へ移民を繰り返してきた口伝や、その中で時照愛人が地球に移民して開拓を始めた記憶や今の世界の前に二つの世界があつて今は三つめの世界である記憶も受け継いでいない。しかし古代では宇宙開闢からのその記録も時照愛人の移民から地球の歴史が始まったことも三十五万年前の世界や一万二千年前の世界の記憶もちゃんと伝わっていた。

古代では宇宙文明との交流は当たり前でそれが古代文明を支えていた。当時の宇宙文明との交流で宇宙から場と力や星から星へ技術や科学が地球に齎された。そのころは正しい人類史や地球史が当たり前で人類の起源が無限にまで遡り、そこから移民が始まり宇宙に

はたくさんの同胞がいていづれ自分たちもその仲間になりたいたいと考えていた。月や金星では宇宙の創世からの人類史が受け継がれ移民は順調に進み開拓は発展し多いに栄えた。

それは開拓が順調であつたから、戦乱や対立もなく宇宙との交流も途絶えることもなく宇宙船の往来も自由で、宇宙開闢以来からの宇宙や人類の歴史や伝承も途絶えることがなかつたから、場と力や星から星への弛まぬ歩みの哲理を構築出来たからだ。いかに異星人と言えども口伝や伝承や文明や記憶を受け継いでいなければ移民は円滑に進まなかつたろうし、宇宙創世からの英知を發展させようとは考えなかつただろう。だが開発が順調なら偉大な宇宙文明を実感出来るからありがたくて發展させようとする。

その繋がりを断絶させる者が現れたら、その時どうするのか。断絶したらどうする。苛めからどうやって繋がりを守るか。宇宙文明では伝わる口伝の世界を一つ一つ確かめてきた。その口伝の話の内容が一語一句間違いない、その通りほんまやと確かめた。三千年の間、伝承されてきた中身は時空間の構造そのものなのだ。なら時空間の構造の本質を確かめれば悉く伝承と一致するはずだ。正直を確かめて行けば時空間の本質に行き当たる。実は聞こえる。人間は力の偶然の産物ではないし、場の計画に基づき出来ている。場の原型は場の情報やエネルギーを送信し受信している。我我はその受信の仕方をおぼれただけだ。太古の昔、移民を始めた当初の古代地球人は宇宙文明からその方法を受け継いでいたが、地球では開拓は思うように行かず、縄文時代までは伝わっていたが縄文時代の終焉と共に衰退し歴史から姿を消す。その流れは五百年ほど前まで北米大陸や南米大陸に伝わっていたがヨーロッパ人に根絶やしにされてしまい地球から姿を消す。

満遍無く、場力を使えば過労は起こらない。筋肉にしる神経にしる人体は場から出来て

いる。生きて行くためには食べるが、それは無限から来る場が力まで届かねば人間は土台のバランスを欠き不安定になる。いくら力で栄養を摂取しても心も体も満足しない。いい服を着ても旨いものを食べても満足しない。所詮、有限をいくら堪能しても飽きが来る。力では必ず限界に制約される。それがその先を求め、いつまで経つてもこの先がまだあると満足が無い。

しかし、場と連動すれば無限が流れ込む。見える、見えるのだ。これがあれもこれもと際限ない欲望が初めて満たされる。有限なるが故に拘束され不満が起る。しかし限界が無くなった時、自分が求めたものが見えるのだ。不満の原因が分かる。ものがあるようが手に取るように分かる。それはすべては場に原型がありそれが力に写ったからだ。場を見ることで原型や原因の大本が直接見える。幸せが実感出来る。

学校にしろ、会社にしろ、要求されるのは欠乏欲求だ、成長欲求ではない。欠乏欲求に限りが無い。欠乏欲求をいくら求めても満足しない。果てしなく求め続ける。成長欲求は満足がある。サラリーマンは欠乏欲求で動くが成長欲求では動かない。始めに成長欲求を決め、それに必要な欠乏欲求を構築すればよい。

証明できない公理

場力を通る中心線は無限にあるでも二本以上あるでも一本しか無いでも成り立つ。だが大成奉還是一本しかないを前提にしている。大成奉還は場力の支配で中心線は別室部長だけ。ほかはない。だから一本だけが正しいが証明出来ねば別室の正当性はない。だが一本

しか無い公理は証明できない。場力を繋ぐ公理は無数にあり、その中の一つに大成奉還の公理があるに過ぎない。従つて大成奉還別室制度の正当性は三五教の主張に過ぎず正当性はない。

合法か違法かが、法律である。法律の精神などは考慮しない者が出てくる。法律の精神に違反しても合法ならにしてもOK、それが法律であるという解釈をする。法律や法則で考えたと法律や法則の本質を考えなくなる。組み合わせて都合のいい解釈をする。都合のいいように組み合わせて使うようになる。そこで警察や検察や税務署が合法や違法を調べ裁判になる。しかし合法か違法かを争うが納得のいく判例は出ないに等しい。

真理は法則によつて示される。それ故に法則を研究することは真理を研究することだ。

だが法則は真理ではない。真理は法則的に出来てはいるが法則そのものは観念であり存在しない。法律の前文はすばらしいことが書いてある。日本国憲法の精神は確かにすばらしい。六法全書だつていいことが書いてある。だが誰もその精神で行動していないことを皆が知つてゐる。

裁判で決めるのは合法か違法かだ。法之精神に準拠しているかではない。決まりごとの法則や法律で考えたと組み合わせの善し悪しばかりになつて次第にその本質が顧みられなくなる。力しか見ないからだ。法律は真相を扱えない。法則は真理を扱えない。どうにも出来ない。

これはこう、それはそうと、計量出来る。それで計つて決めるのが法律や法則。はかれない領域を扱えない。はかれないければ切り捨てる。計れない確率イチとゼロは切り捨てる。無限や万能も切り捨て。するともとの本質の原型と遊離してくる。原型を丸いテーブ

ルとするとテーブルに乗っている時が原型の上にある。だが、原型から外れればテーブルの外に落ちる。外れてしまえば支えるものがない。床に落ちて壊れる。

本来、真相のための法律や真理のための法則は初步的な知識しか持ち合わせない人が弄んだためにその本質を見失い本質から逸れた人の言いなりになって、丸ごとテーブルのふちからまっ逆さまに落ちる寸前だ。法律を活用し法則を使いお金を手に入れようとする人がリーダーに持て囃される。法則を導く、それが活用され発明発見が起こり、やがて産業になりお金を生む。お金はさらなる法則を導く資金になる。

お金にしる法則にしる法律にしる、相互に社会の中で循環している。法律の許す範囲で自由を謳歌する。何をしても法律で正しい合法なら何をしてもよい。だが、合否が一人歩きして本質は皆無だ。本質の精神は、はかれない、だから計れる合否が一人歩きの天然を鑑みない。合法で何をしてもよいなら合法に基づいて、天然を立てそうなものだが、誰一人として森羅万象のお役に立とうという者がいない。計量出来るか否かが、取りだたされて、測定範囲外の本質がない。

一人ぐらい、よつしや、おいらが天然自然のために一肌脱ぐかという者も聞かん。確かに自由はあるがそれは天然の裏付けがない。理論上、天然の場を助けることは出来るはずだが誰も音頭を取るようにもみえん。力で行えば場とズレが生じる。そのズレを合法的に解消出来るはずだ。法律に則り場の原型の通りに作ること出来る。だがその域に達した者は見かけない。

法律に則つてもそれが場のご意向にはならない証拠だ。なるかもしれないがならないほうが多いからならないのだ。可能性はあつてもまず起こらないのだ。何故か。それは場が

理解出来ねば真理を助けようがないからだ。

法律は団体の団を作るためにある。団体の団を作り運営するためにある。法則は真理を法則に従わせるために作られる。いうこと聞かない人間や天然を従わせ管理するためのものだ。法律の通りに動くようにする。天然を法則の通りに動くようにする。そのための、法律や法則だ。人間の都合のいい法律や法則を作る。だがそれは天然を消費する。

三角を四角や丸にした、そのしわ寄せが来る。さらに天然や人間を従わせれば、ますます強力な団を作る法律や法則になり、原型から遠ざかった法律や法則になってくる。真理や真相を団体の団の都合のいいように使うために法律や法則が求められる。

人間が扱う範囲は無限の中の有限の測定範囲以内だ。無限は範囲外だ。すると範囲を越えた森羅万象のご意向が反映されないのだ。有限の力の地球という星の範囲以内で法律や法則を蘊蓄している。その中でお金をまわしてもお金の使い道は場に当たることが今までない。天然のお役に立つお金の使い道はない。当たる可能性は確かにある。しかしそれは可能性だ。どんなことでも絶対には言い切れない。実際お金というモノの使い道が場に当たることはない。ないから場のために働く経営者がいない。

法律にしろ法則にしろお金にしろ場との同期機能がない。使えば使うほど場と誤差が出る。法律や法則やお金が発展すればするほど誤差が底無しに増大する。

森羅万象と同期する機能がないからだ。場力共鳴機能を持った法律や法則や団体の団、これらがならないとならない。組織を作るために法律はある。法律が場力共鳴機能を持てば団体の団は場力共鳴機能を持つだろう。場力共鳴機能の研究が出来ればやがて、これらは産業になり富を生み、富が更なる場力共鳴機能の研究開発資金になり、場力共鳴機能が

発展する。それが法律や法則やお金に生かされ経営や団体の団が場力を最適化し、それが貴重な資産になり、富になって行く。

あるだけで場力共鳴になる買うだけで場力共鳴になるスイッチをいれるだけで場力共鳴になる場力共鳴機能だ。場力共鳴で動く車。つくだけで場力共鳴になる明かり。録画出来れば場力共鳴になるビデオ。場力共鳴で湯を沸かすポット。場力共鳴になる電話。使うだけで場力共鳴になるパソコン。炊くだけで場力共鳴になる炊飯器。場力共鳴機能水を作る浄水器。乗るだけで場力共鳴を発揮するチャリ。

カズとチカラがあれば、カネが出来る。チカラとカネが、あればカズが出来る。カネとカズがあればチカラが出来る。カネもカズもチカラも場力共鳴機能がない。カネやカズやチカラで出来ることは天然を動かせない。天然の場、以外の力の地球だけの範囲のカネで出来ることは場を動かせない。場と同期するように出来ていないからだ。同調する機能が無いからだ。

学校は、試験で点数を取ることしか教えない。学校に学問はない。学問は自分でやれ。学問するために大学へ行け。いい学問はいい大学。そのために受験でいい成績を取るために義務教育の学校に使命がある。だがいい大学は受験戦争が得意な人ばかりが独占し苦手な人は学問したくても辿り着けない。知識や技能や装置は企業や学校が独占し関係者以外は使えない。

満足いく家を作るにしろ専門的な知識や技能もある。車にしろパソコンにしろ炊飯器にしろ、最高のモノを求め、デザイン、機能など、それを手作りしようとしたら、知識や技能も習得せねばならない。そういったものは企業や学校が独占し誰にでも無料で解放さ

れていない。

太古の遺跡

場力の話が本当か。それを確かめる方法はあるやなしや。それは一つに、区画整理が上げられる。GPSでロードマップを作る。地図を片手にピクニック。デジカメとコンパスと水筒担いでポタリング。これは高位地と低位地の関係が成り立つか実際に歩いてみるしかない。

時空間の量子はプラスエネルギーとマイナスエネルギーの状態をいつたりきたりしている。プラスのときエネルギーを出す。マイナスのときエネルギーを吸込む。量子はプラスとマイナスの間を振動し量子自体がプラスのとき光子を出しマイナスのとき出した光子を取込んでしまう。そのために量子は光子を出しつばなしにしない。量子の出す光子はプラスからマイナスに向かうとき光子が減少し、マイナスになると光子を吸込み、プラスに向かうときまた出始める。これは零点振動と呼ばれている。

エネルギーはどこで出入りしているのか。量子が吸込んだエネルギーはどこに消えたのか。吐出したエネルギーの元はどこか。光子を上から見ても下から見てもほかに構造はない。量子の位置を探ると一個の電子一個の光子が在ってもそれ自体はそれ自体で周りにほかに構造はない。一個の電子や一個の光子、それより小さいとなるとゼロセンチやゼロミリだ。ゼロほど小さいモノはない。するとゼロセンチより向こう側になる。

宇宙構造は原始的時空間の名残がストロンチウムでその内側がコンチニウムである。コ

ンチニウムの周りをストロンチウムがおおっている。どうやって光子や量子は場と出入りする。メビウスの輪のようにバキウムとコンチニウムがつながり自噴してくる共鳴だ。場力の呼吸を出来るようにしないと発電しない。当然人体も同じで人体が場力呼吸しないと腸脳発電は起きない。人体の共鳴装置は間脳と丹田である。腸と脳だ。これは共鳴が出来れば時空からエネルギーや情報を取り出せる。量子一個でも共鳴しているのだから、量子一個でも場力から情報やエネルギーの供給を受けている。

そこは共通のコードで動いている。当然人間の意志もそのコードで働いている。意識がそのことに気づけば意識は森羅万象と一体化出来る。それは意識を解する装置の開発に繋がる。まず初めに、場力共鳴とはこういうのか。これが共鳴構造か。本当に意識って拡張することが出来ると分かればならない。

意識というモノはタネと同じで発芽しないと新たに生まれ変わらない。芽が出て葉を茂らせ花が咲いて受粉してタネが出来る。意識も次の段階に進歩するためには発芽しなければならぬ。タネがどのように発芽するか、その原理が人間に完全に解明出来ていなくとも自然界では毎年新芽が出る。人類が自分の肉体の作動原理を解明出来なくとも人体が生きているように発芽や共鳴の構造が解明出来ていなくとも意識は発芽する。人類の心の持ち方で発芽するしないが決まる。天然の生き物は皆原理なぞ考えなくても使っている。

意識が発芽する方法はいろいろある。場と力と星の真相が伝承されていた縄文時代までの行法は縄文時代の社会制度であった。誰でも共鳴出来るようになる社会制度になつていた。当時では共鳴出来ない人のほうが珍しくジューザスやブツダやモハメッドや役行者や空海のようなことが誰にでも出来た。しかしその社会制度は衰退し古の賢者明哲は何とか

後世にそれを伝えんと宗教を起す。そこで宗教の中に形式骸化した場力共鳴の英知が残っている。それが腹式呼吸や瞑想などだ。

幾ら小周天や大周天と言っても、大脳智や腹脳智と言つても、氣つて何だ、丹田つて何だ、靈とは座とは何か。氣合ひを入れる。それは何だ。古武術も宗教家も科学者もお手上げ。だが縄文時代まで伝わったのなら当然その共鳴の仕方は今でもあるはずだ。とりわけ縄文の時代から伝わるもの。それは相撲に見ることが出来る。古神道の鎮魂帰神法なんかに見ることが出来る。

縄文人の残した遺跡を見ると分かる。縄文時代の遺跡の分布を縄文土器で分類すると、時代ごとに土器を作る人人の勢力の移動のようすがわかる。そして縄文人の石器を見ると石器に使う原石を選んでいたことが分かる。遺跡から発掘される石器の原石は用途により産出地が決まっている。これは縄文人が入手先や入手ルートを持っていたということだ。

何を基準にして交易相手や移住先を決めていたか。それが場力共鳴だ。当時の人は意識を発芽させ場に根を生やすことが出来た。そういう社会制度だった。当然その社会制度では人は場力を使う。当然其処では人間は力の領域に拘束されない。日常の生活で場力と星の真実を使うのは当たり前だった。

彼らの共鳴装置は只の天然素材を使っていた。我々が見るとそれは只の石だ。天然素材を使つても場力の機構を使うことが出来る。社会全体で場力共鳴装置を作り拡大していった。古代の遺跡には共鳴装置を見ることが出来る。どのようなものか。

当時の人の装置は天然の山を使うことが多い。その山は天然資源が豊富な山であつた。自然の共鳴機構が作り出した鉱脈が走り、それが自然の半導体であり自然のコンピュータ

であり自然の情報処理装置でありエネルギー発生装置である。その機構とつながる端末として自然の石や木や土器を使っていた。

もとの英知

日本語も縄文時代では隠身言霊であつた。先史を伝える古文書の古史古伝には縄文時代は、八尋殿とヒヒイロカネに霊と座に神と人に隠身言霊の時代であつたと示され、世界中でピラミッドトリスメギストスネットワークの構築が試みられていた。言霊とヒヒイロカネは両方がセットである。文明を支える言行心技体一致の原理である。古代人は量子論や相對論を知っていたし宇宙の構造機構も知っていた。

天文学や量子物理学が解明したビックバンや宇宙の晴れ上がりや宇宙の地平線も知っていたし、超銀河団、銀河団、銀河系、太陽系、惑星、衛星も知っていた。太陽系は中心に恒星がありその周りに惑星が並び、惑星の四つ目ごとに小惑星帯があり恒星を中心にして十二の惑星と三つの小惑星帯から太陽系がなることも知っていた。縄文時代まで宇宙文明と交流が在ったから知性生命精神生物質量の自然発生の法則が当たり前であつた。当然、自分たちの地球も宇宙からの移民で始まったというのが常識である。

一万二千年前、大戦争を生き延びて地球に住み始めた人は当初から地球全体で通信していた。宇宙文明の人人が宇宙に避難した人人を地球に返す時、地球に嘗ての過ちを繰り返さないように心ある人人に試験の時が来ることを伝えた。

一万二千年前の大戦争を生き延びた人人は世界に広がり各地に八尋殿を造営したが、そ

れも三五教の過失により中断し、権力闘争が本格化していく。犯罪に対処できない社会が本格化した。過ちは誰にでも在る。犯罪をどのように更正していくかだ。悪意で過ちを犯し、開き直った人を更正させることは出来ない。社会から隔離するしかない。そんな悪の権現の悪人に過ちを自覚させ涙を流し自ら懺悔するようになるしか更正はない。深く反省するとはどういうことか。結局、犯罪者がしているのは場と誤差をつくることだ。

人間は本来、正直であり悪人はいない。ところが誤差が悪を生む。悪とは完全無欠から離れた状態だ。問題はそこだ。社会制度が完全に向かうなら当然誤差が生じて社会制度が誤差を吸収し修正してしまふ。縄文時代、戦争がなかったのは社会制度が悪すなわち、誤差を吸収し修正するからだ。縄文時代、悪人は稀だった。何故なら悪人に成つて理想的に完全な人生を送ることの出来る社会制度にはじかれるより善人になつて完全と誤差がない自由な人生を送るほうが良いからだ。

社会制度が八尋殿ヒヒロカネであり完全であり、我々が暮らす目的である宇宙開闢の前に帰る時のために生きている。宇宙開闢以来、今が帰る時と自覚しいつかなる時も今が黄泉津平坂の千引き岩閉じの時であり、いついかなる時も今が、天之安河の天之岩戸開きの時である。縄文人はいついかなる時も性根を据えて正直を覚悟していた。それでも過ちが起こりえる。八尋殿の有り難みに触れ思い直す。そうするとよく見える目が開く。見える、見えるのだ。

はつきりと自分の道が、成すべきことが行える。それが縄文だ。生きる意味が見える。よく分かる。それが宇宙文明だ。大宇宙を旅し自分の行き着く先が見える。誰でも物理的保证する権利と義務を行使する。人生の上手い生き方が手に取るように分かる。場を介し

て誰でも友達。時空間が保証する平等で自由。差別もない。八尋殿の造営は豊かな実りを約束しヒビロカネは良質の食べ物を生産した。

人間が必ず成功する生き方、楽しく生きる生き方はほぼ決まっている。それが場と力に誤差がない生き方だ。人生を円滑に生きるには完全な人生設計と寸分違わぬ人生を送る。縄文時代の生活はまさに完全無欠と誤差がない人生だった。大地は肥え実りは豊か。それを支える社会制度は充実していた。それは八尋殿の造営であつた。それが腸脳発電を支えていた。人類は八尋殿を見て育つた。八尋殿の成長が人類の成長で八尋殿が荒廃すれば、人類の成長が止まる。

古の賢者明哲が歩んだ道の上で道を失いし人が、ロードマップを作らず減らず口をたたく。近代欧米の文化は宇宙唯一の知性を持つ地球人類が支配する特権があるようなことを考えている。人類が資源を使うのが当たり前、自然に感謝することはない。だがそれは三五教の獅子身中の虫に便宜を図つたバカモン、そのものである。虐げられた道彦が型になりアメリカやロシアがホビやアダムスキーを潰す。常世彦め、悪さしやがると三五教がいうが、それは日本国内閣調査室別室部長が自分の悪さを棚上げしているのだ。

日本の別室部長が外国の別室部長を批判するのは自分を批判しているのだ。だから外国に悪宣伝で押し込まれるのだ。日本の三五教が道彦を悪宣伝する獅子身中の虫を重宝がから結社が民をボコボコにする。三五教が偽善の大悪の内なる悪を採用するから野心家が下克上ばかりするのだ。

言葉つてなんですか、学校の先生はこんな質問に答えない。それは何ですかを連発したら怒り狂う。この手の質問に答えられる御方はいつも決まっています、それはその手の質問

をさせる御方に聞くしかない。その御方こそ、場だ。自分の魂だ。時空の背後にある自分の正体だ。当然全知全能のその御方に何千万回質問しても質問させているのは自分の正体だ。自分の正体がそう思わせるように仕向ける。

自分の本体が正体に気づいてほしいから考えさせる。学校の先生に一千万回も同じ質問をしたら怒り出す。しかしその蓄積が大事だ。本来はその手の質問の正体に気づくように社会制度が成っているべきだ。取り分け子供の教育には必須だ。自分の正体と良好な関係を構築するそうした本質を導き出すシステムが必要だ。

縄文一万年の歴史は常温常圧での元素転換システムなども持っていた。それは万能医療システムで、その手の装置は今でも残り伝説や神話として残っている。古の賢者明哲が起こした奇跡は大抵八尋殿を使ったものだ。

縄文人たちの生活は場に裏付けがある生活である。従って縄文人の持ち物は場力を使うものが多い。力しか見えない今の人が見ると縄文人の生活様式は分かるまい。縄文人が行なった量子操作はあまりに簡単過ぎて現代人は気が付かない。それは縄文人が測定機器を使った方法を用いず、人間が見えることにこだわった。測定するのは人間だ。機械ではない。測定にバラつきがあるのは測定する人間の個人差だ。共通の視点で計らないからだ。縄文人は人間が誰でもよく見える目を持つことで必ず分かちあえるような人間であった。そこでどこでも誰でも計ることの出来る共通の方法を使っていた。それが場だ。時空間はどこでも共通である。同じだ。その同じ物理を使いこなす手法が宇宙に充滿している。人間が持つ可能性を大事にする社会であり基本的には自給自足である。自分で作る喜びを味わう。自給自足できて一人前であった。自給自足はその地域その地域で収穫できるもので

生活する。

自分たちで作ったものを自分たちで収穫する。自分に必要なものは自分で作る。それに適合した社会であつた。社会制度が生きて上での必要な技術や訓練を提供してくれた。石器の作り方もすべて学ぶことが出来た。そこに創意工夫を凝らし色々な技法を編み出す。それは組織を越え縄文の社会全体に広がっていく。

人類がよく見える目を持つには人類があらゆるすべてを分からねば分らない。無限の現住所を特定できねば見えない。高位地は人類を見開かせる。場が噴出し力が吸込まれる。高位地を作る自然の作用が人類のよく見える目を見開かせる。高位地に八尋殿を造営し、高位地を持つ場力共鳴が量子呼吸を起こし誤差を呼吸して完全を吸気する。それが癒しで在る。癒しは生命の自然発生であり免疫である。

その生命を生み出すパワーは遺伝子を組み替える。自然がデオキシリボ核酸を修復するこの力は核酸よりも根源的な時空間の背後にあるデオキシリボ核酸の設計図が形に現れたのだ。命を生み出す作用は時空が核酸を構成する量子を癒す。時空で隔てられた場と力を量子が癒されることで生命が生じる。

量子が本来の姿に現れる時、量子が癒される。量子が癒されるから核酸が出来る。時空の癒しが無ければ知性生命精神生物質量は生じない。生命を生み出すパワーであるデオキシリボ核酸を生み出すパワーは量子を操作するパワーでも在る。

生命の自然発生は自然が行なう元素転換である。生命を自然発生できれば、元素転換が可能である。癒された金属元素が高位地ヒイロカネだ。理想的な生体の中で最高の癒しの元素転換が起こる。癒しとは完全と誤差がないことだ。我は誤差を生み必ず狂う。そ

のとき愛に癒されるかが人生を決める。天佑神助は結局、場と誤差がないということだ。完全に上手いく方法は大体決まっている。それを実行するかだ。

国祖は場力共鳴を支配しようとする。それが地球を滅ぼすことになる。だがそれをしようとする。私が地球を救う。なのに民は私に刃向かうという。だから民は支配者を望んでいないのだ。民にとつて国祖は民を顎で操ろうとする支配者だ。

特定の組織や団体が支配するのではなく場力共鳴が社会秩序を構成する。そうすれば民は支配者に安全を脅かされることもない。善悪を法律が決めるのではない天然自然が善悪を示す。場力共鳴が起きるか起きないか、腸脳発電が起きるか起きないか、量子呼吸が起きるか起きないかが善悪の基準だ。

宇宙文明には裁判所もないし警察もない。国会もないし政府もない。会社もないが上手く行く。それは宇宙を構成する規格で社会制度が出来ているからだ。組織や団体、施設として三権がない。三権の長はいない、最高裁判所も官邸もない国会議事堂もない。それはすべて時空間が包含している。文明も文化も政治も経済も自然の営みである。

縄文時代、量子機器がもうすであつた。それは場を使う。時空の本質を使う装置であり、時空の構造をそのまま使つていた。それは現代人が一センチといえば地球ではどこでも一センチで在る。センチとかメートルというような基準が決まつていて誰でも一センチと言えば一センチをはかれる。同様に縄文人は竿秤に時空間を使う。時空はどこでも同じでどこでも共通の場力共鳴や量子呼吸や腸脳発電が起きる。そこで縄文人は時空のこの見方でこう見ると言えはああそうかとすぐに分かつた。

誰もが自分の正体に気づき活用する。手に取るように自分の正体がよく見える。誰でも

宇宙共通の時空の本質を使い場と力と星から星を旅し大地のお世話をした。この星でここまでお役に立ったならこんどはこんなお役に立ちたいというのが縄文であり宇宙文明だ。よく見える、よく聞ける、よく分かるのは場を見ている。存在する完全が見える。どんなものか場が知っていてそれを教えてくれる。それは完全と共鳴調和し合えるかだ。そこで腸脳発電を起こす。社会が八尋殿を造営するのだ。

大地を高位地化して量子呼吸を盛んにしカタパルトを使い癒しを起こしすべてがカルテに帰る。カルテに癒されアトムは健康になる。アトムは完成を目指し場から栄養を摂取しより安定した進化したアトムになる。場の豊かなエネルギーを受け元素転換が起こる。その揺籃の中で核酸がデオキシリボ核酸に進化する。生命を自然発生させ元素転換を起こす揺籃をたくさん作れるか。すなわち、自分の体内や時空そのものを揺籃にして沢山の養い親になる。

新鮮な清水は濾過しただけでは生まれない。大地の場、自分の場を通る濾過された水こそ、清水なのだ。自分の正体を豊富に含んだブルーウォーターこそ栄養だ。時空に在れば必ず完全な設計図に行き当たるから誤差がない完全な創造が起こる。だが時空に無ければ人類が作るしかない。時空の支えがないから人類が自分を規格構成にあわせて歯車になるしかないから磨滅して朽ち果てるしかない。だから崩れた人間が徘徊する。

人間が基準を決める社会制度は人類を規格化し崩していく。場を基準にしないから完全な状態がない。人類が試行錯誤しても支える人類の負担が重くなりやがて滅んでしまう。今、まさにそうなっている。構造改革を叫んでも無駄だ。全知全能と誤差がないを実現すれば構造改革はいらない。

兇党界にマインドコントロールされた月人に誑かされた三五教が作り出した型が現れた。有史以降の欧米の認識は、実在する無限と切り離されている。だから観念上では腸脳発電が起きるはずだし場力共鳴も起きるはずだというがそれは理論上だ、観念上だ、実在ではない。実際に生物質量がよく見えない欧米の社会制度は実際にピラミッドやトリスメギスを否定している。賢者の石、出来るものか。超能力、やれるもんならやってみるといわんばかりだ。

無理は無理

有限と観念の狭間で完全無欠の完璧を設計できない。無限から来ている完全しか実在しない。試行錯誤の果てに完全は来ない。無限と有限の差が無くなるとき完全になる。実在する有限と実在しない観念から実在する無限を見て完全を推敲しても、人類の観念でありすべてと一体化したすべての裏付けがある完全ではない。すべてと一体なら試行錯誤などいらない。完全が見えるからだ。試行錯誤をするのは完全が見えないからだ。場と一体なら手に取るように分かるからそのままのものを作れる。

ところが有限や観念ではそもそも人間にとつてもコンピュータにとつても分かる大本の場に同期しないからすべてとすべてを共有することがない。これでは訳が分かるが生じない。理解できるが生じない。それで人間が共通の規格を守ること成り立つ規格を決めることになる。そのために人類は歯車となり磨滅し歯車を回す一握りのトップが甘い汁を吸う社会制度が起る。成り上がらんと下克上が起きて滅びの世が出来る。三五教は滅美

だ。獅子身中の虫の転美綻美滅美に操られてゐる。

だからアメリカやロシアが有終の美を競い合う。三五教は早く気が付いて政策を撤回するかが地球のダメージを決める。撤回が遅れば遅れるほど地球は傷ついていく。一刻も早い全廃を希望する。三五教はそのことに気が付いた。だが政策が邪魔をする。思い入れが強い分、自負心を撤回できない。

三五教は自分たちの自負心を民が喜ぶ、自分たちの実績を認めれば民は良くなるという不退転の決意である。だが民は確かに三五教の大成奉還を認めればそれなりのメリットはある。だがそれは見せかけだ。カワだけでタマがない。自負心が我であるから民に負担を強いる。メリットはそれほどない。

道彦はダメージを最小にしエラーを修復することが第一だ。大成奉還を認め修正できないエラーが発生することを最も恐れている。三五教を受け入れバグが出たことを警戒している。大成奉還が民のお役に立つならとくに民のお役に立っている。だが民は大成奉還をなす歯車に無理矢理されて苦しんでいる。民は磨滅し滅んでいる。民に三五教の規格そのものになれということだ。

場を引きちぎり、すべてを失い朽ち果て逃げまどう人民を三五教は更なる綱紀肅正で締め上げぐうの音も出ない支配を確立し、なぜ民は幸せでないのかと首を傾げる別室部長。三五教が地球人を真相から引き離れたのだ。この責任をどうとる、三五教。いつまでも、天之岩戸開きのチャンスはない。

民に民が知らないことをさせようとしても、民には絶対に出さない。分からないことをせよと言っても民に出来るか。大成奉還の正解など、民は知らない。三五教は出来る出来

るといふが、民は出来ないではないか。艮の金神を苛めに苛め、何故自分を苛めるんだと別室部長。

別室が民をいたぶるから部長はいたぶられる。三五教が観念を掲げるから因果応報だ。実在しない観念だから別室部長の匙加減で動かす。だが場に無いからどうやっても完全なる設計も規格も計画も成り立たない。一向に完成しない。成功の道筋さえ示せない。このまま時が流れば民や地球や道彦の傷口は広がりやがて致命傷になる。早く適切な処置をしないと理想社会に成っても民や地球や道彦に後遺症が残り、本来とはほど遠い理想社会に成りかねない。

科学的・真理的・宗教的原理は実在しない。場はない。前と後ろが一緒、頭とお尻が一緒、そんな方向がイメージ出来て、出来ません。別室部長でさえ分からない大成奉還を民にせよとはいかに。それは大成奉還ではないと言いつつ、それは大成奉還だとは言わない。三顧の礼もせず、全ての民が部長に三顧の礼をしてくるのを今か今かと待つ。民衆が有難い政策をするでなし、なんの政策も成さない。ようは大成奉還を待ちぼうけするだけ。それと忍耐と異星人の科学力で権力支配を成そうとする。

三五教が分からない。場の計画や指令や設計の通行に行えば、適切に対処すれば容易く理想社会に移行する。だが内閣調査室別室部長は人間に過ぎない自分が管理する社会制度を手放さない。自分たちが民のために政策を実施しているというのだ。民に別室の有り難みを認めさせようとする。だが場を封印する別室は情報操作で民を操る。

自分の存在基盤を失った民衆を操る。民に民が元は場から移民して来た。場と誤差がない完成した社会制度を作ろうとは言わない。民にどうしろというかね。なぜ。そこまで、

支配したがる。もうどこにも民の場の原型はない。完全な情報操作だ。三三教の言つた通りにする。だから嘘の計画通りにすることか。そんなことでは破滅だ。地球の民の理想を實現したのが嘘から出た誠だという嘘吐きの計画に従えといふのか。お上は別室が動かすから黙つてハイハイとお上のいうとおりにする。それが人生だといふか。

だが別室は月で獅子身中の虫が不正をしていると知らずに月人の命令を行使する。すると地球で兇党界が暴れる。誰にも止められない。それを止めようとしても別室が絶対性を行使して止められない。

千引き岩が開いてる。それを閉めるのは黄泉津平坂の戦い。第二次大本弾圧が型になり大日本帝国が滅び王仁は八尋殿を救つた。本土決戦になれば日本軍は山野に塹壕を掘りゲリラ戦に出る。連合軍は豊芦原の瑞穂の国が焦土と化すまで爆撃するだろう。そうなる前に王仁は手を打つた。しかし、そのことは情報操作により歴史から消される。

場を考へる有益はすべて消され民は別室の玩具にされ民の理想社会を築いたと大まじめに信じている別室。お上、三権の長にも、三三教のご意向は分かるまい。大神にさえ分からないのだから。試行錯誤を繰り返しても完全には成らない。有限と無限の識閥をなくすとき完全が現れる。三三教では不可能なのだ。出来ませんことに民は使役されるから口舌が絶えん。

バキユームシステムを早く再起動したいが、誰も別室制度に刃向かうことは出来ない、この惨状。別室制度の元で民になんの自由がある。法律が定める権利と義務、それがなんになる。今の産業が生み出す製品のどこに役立つものがある。畑の野菜にいいものがあるか。実りはせん。いい実りは完全と誤差がない実りのことをいう。試行錯誤の産物ではな

い
。

その
世界^{せかい}

自由について

時空に根ざした自由を考える時、英語で考えたほうが分かる。古典や古史古伝の自由は場力共鳴の自由である。それは英語の訓読みの仮名の世界だ。音声的基底思念の生の実感である。鼻につく英語の原初の息吹を感じる。それは実感であり目に浮かんでくる。伝説と神話の息吹は最先端の知識を以て程よく表現されるものである。新しい靴を履いて古の道を歩く。古典の原初の息吹の四八音の響きの仮名の表田のアザムで出来た英訳や漢訳こそ言霊である。

即ち隠身言霊とは時空の本質を表現する最先端の知識で現す必要がある。最先端の知識の用語を用い生の実感でイメージできる。隠身言霊は常にリフレッシュする必要があるからだ。人類の英知が結集する最先端の英知には言霊が躍動する。コンピュータや量子力学や天文学や人権や権利、自由や義務などの世界など言霊の活躍する世界だ。

隠身言霊は最先端の知識の靴を履いて古の賢者明哲の歩んだエリア88を歩むことである。それを比にしてみると、

場力共鳴は、知性、生物質量、相互作用で、
量子呼吸は、生命、動植物、輪廻転生で、
腸脳発電は、精神、想念動力、因果応報であったり、
訓読みの仮名と用語を対比してみると、

あんだんては、思考瞑想で、
いけこいかえるは、運動感覚で、

さおはかりますは、知覚反射で、

あらゆるすべては、恋愛感情であつたりする。

そこには古典の英訳がものをいう。先史の隠身言霊では無限との連動が当たり前でありその当時の道具や言葉も無限との整合性を第一に作られていた。先史の道具は天然自然そのものを使い出来ていた。時空からの共鳴を使う道具である。当時の言葉は対称構造の比

になつていて、訓読みの表田のアザムである。

表田のアザムで英語と日本語の訓読みの仮名を考えると

ワードワーク デスクワークは、あんだんて。

ハブワーク コップワークは、いけこいかえる。

ワールドワイフ ワイルドワイフは、さをはかります。

マンワイフ ブッシュワイフは、あらゆるすべて。

とかになる。

日本語の再構築とはどのようなものか。例えば数学の専門用語。日本語の訓読みの仮名

を無視した微分積分みたいなものはこんなものから。数列だとかいうのこんな翻訳に

成つてない。マスを取入れるとき和算の用語ではなく訓読みに帰つて翻訳すれば計量器の

名前は竿秤升、

重さの差を量ります、

時間の差を計ります、

長さの差を測ります、

とかになる。マスなら竿秤升や差をはかりますで良いと思う。

微分積分なら行け来い帰るで良いと思うし、代数幾何は差をはかります。数列集合はあらゆるすべてで因数分解はあんだんとかに成る。それを表田の比にするとうなるか。大体物事は逆裏対偶命題である。

あらゆるすべての対偶はあんだんとで、いけこいかえるの対偶はさをはかりますとする。そこで数学を表田の比の形にする。

あらゆるすべてにあんだんとで、

いけこいかえるにさをはかりますになる。

これは専門用語では、

数列集合で因数分解に、
微分積分で代数幾何に、

なる。

知性生命精神生物質量動植鉱物想念動力相互作用輪廻転生因果応報の自然発生の法則や
場力共鳴や量子呼吸や腸脳発電を英訳すればどうなる。それは時空間から自噴するアトム
で自然発生したアトムはオルガナイザーでありイン アンド ヤンを経由しカルテ カタ
パルトから場に吸込まれる。アトム オルガナイザー インヤンジャー カルテになる。
アトム オルガナイザーでありオルガナイザー インヤンジャーでありインヤンジャー
カルテである。ソシアル ユーザー インターフェイスのソフターアプリケーションを支
える情報家電である。

本来、自分の原型に従うにはルールがある。自由の本質は自分の原型と誤差が無いこと

である。自由じゆうのルールは本来ほんらい、權威けんいや階級かいきゅうを必要ひつようとしない。各各おのおのが自分じぶんの場ばに従したがうことである。当然とうぜん、自由じゆうのルールを侵おかす者は共鳴きやうめいから弾はじかれる。アトム オルガナイザー インヤンジャー カルテのメリットが受うけられない。

不完全ふかんぜん未完成みかんせいなルールで自由じゆうを行使こうしするから誤差ごさが生しじる。オカルトとオルガナイザーの差さでありカルトとカルテの差さである。それは表田ひょうたのアザムが明瞭めいりやうか、不明瞭ふめいりやうか、の差さである。時空じくうの本質ほんしつに根ねざしているなら当然とうぜんそのアザムに共鳴きやうめいが働はたらく。どんな立派りつぱなことをしても場ばに原型げんけいがないならカルトである。

自由じゆうを行使こうししたときに、カルトかカルトか、オカルトかオルガナイザーなのかの違ちがいを英語えいごでは表田ひょうたのアザムの明瞭めいりやうか不明瞭ふめいりやうかで調べる。当然とうぜん、自由じゆうの行使こうしがアトム オルガナイザー インヤンジャー カルテのソシアル ユーザー インターフェイスのソフターアプリケーションのようになるかならないかが、カルトかカルテかである。

自由じゆうは自分じぶん自身の根本原理こんぽんげんりに由来ゆらいする、場力共鳴ばからうめいや量子呼吸りやうしこきゅうや腸脳發電ちやうのうはつでんである。それは生物質量せいぶつしりやう、動植鉱物どうしょくかうぶつ、想念動力そうねんどうりきであり、知性生命精神生物質量ちせいせいめいせいしんせいぶつしりやう動植鉱物どうしょくかうぶつ想念動力そうねんどうりき自然発生じぜんはつせいの法則ほうそくで、それはアトム オルガナイザー インヤンジャー カルテである。それは自由じゆうを支える情報家電じやうほうかでんのソシアル ユーザー インターフェイスのソフターアプリケーションである。

インターネットの揭示板けいじばんへの良よからぬ書き込みなどの人権侵害じんけんしんがいは、オンオフ二進論にしんろんのコード ライン ユーザー インターフェイスや、グラフィカル ユーザー インターフェイスの持つ欠点けってんのためだ。不完全ふかんぜん未完成みかんせいで不健全ふけんぜん不健康ふけんかうな未発見みはつけんの未知みちに対応たいおうできない欠点けってんゆえに起こるのだ。場力共鳴ばからうめいや量子呼吸りやうしこきゅうや腸脳發電ちやうのうはつでんだから完全無欠かんぜんむけつと誤差ごさがないから

アザニ進論のアトム オルガナイザー インヤンジヤー カルテのソシアル ユーザー インターフェイスのソフトウェアアプリケーションであるならば完全に対処できる。

ソシアル ユーザー インターフェイスのソフトウェアアプリケーションの開発は時空間の研究開発であり、場力共鳴や量子呼吸や腸脳発電であり、サイ アンド レイとピラミッド トリスメギストスの開発であり、テオクラシー アルケミーである。テオクラシー アルケミーはマタギや先住民のように自然を汚さない生き方であり伝統的な先史の生き方である。

物欲がそういった伝統的な英知を食い潰しその発想が今の環境破壊や不完全な揭示板が起こすような人権侵害や投機フアンドのような問題を起こす。テオクラシーやアルケミーの発展が成功していれば今の新聞やテレビを賑わすような問題はおきなかつたろう。

北米や南米の先住民のテオクラシーやアルケミーは潰され、歴史の表舞台から姿を消したが無くなつたわけではない。じつは今でも求めている。人類が求めているものはピラミッド経営やヒイロカネ経済である。

ソシアル ユーザー インターフェイスの、ソフトウェアアプリケーションは、生物質量の自然発生であり、それは先史の生き方であり、ソシアル ユーザー インターフェイスのソフトウェアアプリケーションの使い方であり、自然と共にごみで汚さないリサイクルな先史の生き方で、それは最も正しい生き方であり、ソシアル ユーザー インターフェイスのソフトウェアアプリケーションの使い方である。

先史の人人にも自由があるが別に犯罪を犯す自由主義者はいない。警察もないし裁判所もないがそれほど悪い奴はいない。縄文の遺跡をみる限りでは平和に暮らしていた。北米

や南米の先住民に犯罪者はほとんどいない。日本では縄文が終焉し、北米や南米が征服者に支配されてから犯罪者が激増した。

自由が犯罪を誘発するのではない。それは先史の人人に犯罪が皆無であることから分かる。では何が犯罪を生み出すのか。それは人心の荒廃である。人心の荒廃は時空間免疫システムの低下によって起こる。場力共鳴や量子呼吸や腸脳発電が低下するからだ。それは先史の生き方が衰退したからだ。

自由の最高の生き方や最高の使い方を模索していくと、ソシアル ユーザー インターフェイスのソフトウェアアプリケーションになつて先史の生き方になつていく。完全完成した社会では完全完成したルールで営まれる。先史の時代、不完全未完成なルールを持ち込むことによる弊害と、完全完成なルールの持つ素晴らしさの違いが分かる社会であつた。

天祥地瑞や縄文時代の当時の人は、だれも不完全なルールを持ち込む人はいない。人人は完全なルールで生きていた。その健やかな発展を目指していた。最高の一手を、やめる必要は無い。不完全な有効な二手三手を推敲する必要が無い。

言霊は最高の一手であり、最先端の知識を訓読みの仮名の四八音の響きの表田のアザムのアウエオイ調のアイオウ調の五七調の歌に、推敲することであり、新しい最先端の靴を履いて古の賢者明哲の歩んだ道を歩くことである。ところが、最先端の知識を扱う学者は言霊という毛嫌いの。だが学者は曲言事霊を放任する。

そうすると日本語から言霊が消えて曲言しかなくなる、仮名の伝統が無くなつたですますアイウエオ調和漢外来語混交文が曲言になる。日本人は曲言を日本語というのだ。曲言は有効な二手三手である。言霊は最高の一手である。最先端の知識を仮名で醸さないとき

言語は曲言になる。

自由は常に新しい知識を求め最先端の現場では自由がものをいう。当然、そこでは言葉が生きる。アザムが活躍するのだが、学者は意図的に言葉を避けて否定している。これが繰り返されたら言語は死んでしまう。

最先端の現場では自由に試行錯誤が繰り返されるが同時に過ちが起こりえる。時々刻々うつりゆく時の中で常に判断に迷う。そこで言葉であるはずが曲言になっている。ところがそれを日本語という。だから日本人が使う外国語は日本語的外国語なのだ。だから通じない。どの国も曲言は駄目で、言葉がよいのだ。それを曲言を持ち込むから響感をかうのだ。

自由は自分自身に由来する最高の一手である。自由を禁止したために最高の一手が廃れ有効な二手三手になった。だから言葉が廃れ曲言になった。自由は完全完成したルールであり不完全未完成なルールの有効な二手三手ではない。

不完全未完成なルールと完全完成のルールは両立しない。完全完成と不完全未完成では完全完成のほうが本来強い。ごちや混ぜにして完全完成に過干渉を繰り返し不完全未完成を放任すれば不完全が完全を食い潰す。善人に厳しく悪人を放任する、犯罪者を生み出す人心を荒廃させる国祖の政策がそうだ。

不完全未完成と完全完成のごちやまぜで完全完成に冷酷で不完全未完成に寛大では善が廃れる。完全完成市場の健全健康取引以外は認めないというふうにする。自由行動を禁止することは完全完成市場の健全健康取引を禁止することである。三五教は不完全未完成と完全完成をごちや混ぜにして完全完成が諸悪の根源というのだ。不完全未完成な自由行動

を放任し、完全完成した自由を禁止して不当に過干渉する。

自由と別室

すべてを越えて機能し、完全を示すから別室があらゆるを越えて機能する秩序の構築を
目指したものが別室制度だ。それが神聖統治権だという。当然、政治家もそれを知つてい
て、別室や調査室に逆らうことはしない。別室や調査室の後楯なくして政権が維持できな
いことを知っているからだ。

だが別室は所詮人間だ。無限ではない。だから無数の選択肢の中から有効な二手三手を
吟味する政策しかとれない。場力と星間の仕方である無限そのものとの誤差がない最高の
一手そのものではない。別室に順ずる政権も所詮、有効な二手三手であり、最高の一手を
打てない。

民が喜ぶ政策とは勝者が増え敗者が減る政策である。勝組ばかりが多くて負組が滅多に
いない。豊かに暮らすばかりで貧しさが無い。そういうのを民は好む。それは簡単に出来
る。場と誤差がないが出来ればいいからだ。だが上に立つものは上に立つものほど別室の
プレッシャーを感じるはずだ。政治家なら別室の反発を買うことはしないはずだ。それが
政治だ。メディアも別室について語らない。それがメディアだ。

大體、首相を選ぶとき調査室長のご意向がものをいう。ご意向に違えれば室長はあなた
が選ばれた首相ですからご自分でどうぞと云つて全然動かない。なら室長を首にするか。
それが出来ない。別室がさせない。調査室は別室が守り、別室は調査室を守る。一蓮托生

だ。だから三権の長は調査室や別室を恐れる。だから部長も室長も相互に悪がないか監視しあっている。

かつて列強が恐れたのは日本が平和外交を取り植民地の解放や貧しい人人に善政を成し博愛政策をとることを恐れたのだ。和を以て尊しと為す政策は民衆の支持を集めそれをバツクに世界秩序を再構築し、その中心に日本が成ることを恐れたのだ。

それは現在も同じだ。大きな経済力や科学技術を持った日本が平和外交や博愛政策をとること恐れている。今の日本が抱える内政上の問題と同じことだからだ。結局別室制度の問題だ。西郷隆盛が失脚したから列強の思う壺。パワーで凌駕しようとしてパワーに凌駕された。戦争原理の必然だ。戦うから叩かれる。和を以て尊しと成せばよい。平和原理で勝負が出来ないから戦争が起こる。戦争原理をやめれば自由に生きられる。

今、働いている企業は互いにサービスを競い合う。品質向上を目指す。するとある会社
が新しいサービスを開始するとライバルの別の会社もサービスを始める。そうすると人間
が働かねばならない割合が増える。サービスを売ってお金をもらい、お金でサービスを買
う。それは結局、人生を消耗させる。人生が豊かにならない。自分の人生の豊かさをお金
に換え他人の人生の豊かさを削ったサービスをお金で買うのだ。その結果、各社は重複し
た仕事が増える。働く人の負担は果てしなく増える。

重複した仕事をなくせば働く人の負担は減る。沢山の企業が重複をなくせば大きく無駄
が減る。すべての重複をなくせば働く人は助かる。その省いた分を人生に振り向けること
ができる。そうすれば週に三時間ボランティアするだけで上手いく。競争はいらない。
生産手段が組織で動くから奪い合いの競争がある。だがそれが重複を生む。重複をなくそ

うと思えば競争を生み出す競争市場や企業をなくせばよい。
生産や流通は必要だがお金や競争はいらない。取引市場で生産と消費の交わるところが
価格だ。需要と供給を結んだところだ。市場価格すなわちお金はそれが完全で在ることを
保証しない。お金はそれが場力共鳴量子呼吸腸脳発電で在ることを証明しない。生物質量
の自然発生で在ることにはならない。完全無欠と誤差がないことを保証しない。そこがポ
イントだ。別室制度は、階層構造で対症療法だ。それは全知全能と誤差がないを保証しな
い。

貨幣や為替や株や証券や多国籍企業や競争市場はすべて場の裏付けがない、完全無欠と
誤差がないを保証しない。別室が動いても所詮すべてを扱うソフトウェアアプリケーションま
で辿り着かない。国際市場は二十四時間動き、人間のエネルギーを吸取り人間は自然のエ
ネルギーを吸取る。その果てに地球はバランスを崩しかけている。

国家は自由を保証するがその自由は完全無欠と誤差がないことではない。国家が保証す
る自由の権利は法律の範囲内だ。だが法律は場のご意向を保証してはいない。場力共鳴な
ら合法、合法でないなら違法になつていない。お金市場もそうでお金が幅を利かせる。そ
れが流通するとうなる。時空間に根を張り周囲に溶け込んで馴染んでいくものが作れな
い。こういつたものを作るとうなる。時空間に相応しくない場のご意向に反するものを
作る。その結果、人間が支えねばならなくなる。

あらゆるすべてを考へて正しい使い方しかできないように状況を整えた上で開発する。
そのために時空間の全量を解析する装置の開発をする必要がある。場力共鳴が事実なら、
出来る。産業は場力で変わる。現在、開発されたものでも素晴らしいものが出来る。それ

はどのようなものか。場が導入されれば当然量子呼吸も広がり、腸脳発電も広まり、人はロードマップ作りに精を出す。

火祭りに夜祭りや血祭りに清水祭りで火水祭りだ。古代語には英知が宿っている。完全だった時代の完全な人生設計の奥義がある。それはライフスタイルだ。ほとんど働いていなかった縄文時代、週に三時間しか働かない宇宙文明。地球では週に四十時間は働く。それでもこの程度の生活だ。それは重複しているのだ。無駄が生じている。それと試行錯誤だ。最上が見て分かるソフトウェアアプリケーションがないからだ。

生活習慣も違う。健康で快適な宇宙文明のライフスタイル。食べ過ぎも、飲み過ぎもない。生殖行為は両性の合意に基づき神聖な気持ちで行われる。地球のように曖昧な教育をしない。完全な場と誤差がないから生殖の意義が良く分かる。つまり、生殖行為には、場が宿る。完全なる理想の相手を選ぶ。百代先の子孫に与える影響をシミュレーションすることも出来る。

本来あるべき姿である縄文人や異星人の生活様式とはどのようなものか。確かに組織はあるのだが巨大組織がない。彼らの組織は通常、有志が結成したチームだ。通常、数人から数十人程度だ。超銀河団連邦最大の組織でも二百三十人程度だ。組織を作らない理由は組織は自由を侵す。宇宙文明は自由行動の連合体だ。何をしてもよい自由を大事にする。自由を侵すことはいらない。当然、法律もない。法律で統制しようなどと考えない。法律は組織を構成する上で必須であって自由から見れば不要である。

宇宙移民では惑星の引越しや開発は文明を一式携えて行うから、順調なら平和原理で成長する。戦争原理に成ったら苦しむから悔い改めて戦争原理をやめて平和原理になる。

だが戦争原理に落ちればやがて破滅する。異星人はそうならないように援助する。地球では月がガードしてきたから破滅は避けられた。

だが月の中の獅子身中の虫の野心で地球では悪が栄える。それで地球の開発は、地球の本来の姿から大きく離れた。地球人が宇宙から移民してきたことが忘れられ、生存競争を生き抜くために偶然に進化して人間が出来たというようになった。

それは間違いだ。各国は異星人の援助を受けてきた。各国の高官は異星人の存在を知っている。だが三五教の出した型の通りに真相を隠蔽するから地球人は知らない。なら日本が正しく啓蒙すれば世界の民は目覚める。それが型の仕組みだ。そして宇宙文明は意図的に大成奉還を排除して自由を謳歌することで自由を原動力に文明を築いた。だが地球では三五教が自由を押さえ、それで元氣のない社会になった。三五教が宇宙の真相を潰せば、世界が宇宙の真相を潰す。三五教が正しいなら今頃、宇宙文明に地球は成っている。

三五教が正しいなら民衆は過ちを起こさない。型の仕組みから民衆が過ちを重ねるのは三五教が過ちを犯すからだ。民衆に自然を潰させ、命を粗末にすることに罪悪を感じないのは三五教が大成奉還のために自然を鯁節にすることを躊躇わないからだ。民衆が悪に走るのは三五教が悪に走るからだ。三五教が善意で悪の命令をくだすから民衆が平然と悪を犯すのだ。自由を潰す三五教が民衆を地獄に先導する。民衆を地獄に誘い何故天国に民は辿り着けんのかと首を傾げるは笑止。

何をしてもしない自由を保障する社会はその社会で悪が成立しない構造になっている。その社会で悪が減し善が増すから、何をしてもしない結局相殺すると善になる。悪が成り立たない社会制度は時空間免疫系が健全であることだ。時空間が悪を排除する。善因善果悪因悪果

である。善が増す悪が減す。完全なる場と共鳴によるそれだけが健全な社会制度である。システムが八尋殿になっている。縄文や異星で法律がなくても悪がないのはそのためだ。悪の付け込む好きのない社会制度は場と誤差がない方向に進む社会制度だ。

自由と時空

そもそも時空間は場に根ざしている。力の時空間自体は時空間の大本の場の時空間に成ろうとする。子が親になるように、ひまわりのタネが発芽して芽が出て花が咲くように、時空間は時空間に成ろうとする。当然、時空間は時空間にあるものを取り込んで時空化する。当然時空化の働きは時空にあるものを場に同化していく営みだ。

人間の組織の細胞は役割が決まっている。栄養を取入れて老廃物を出す。それと同じで時空間は時空間を構成する要素に相応して栄養を取入れて老廃物を出す。それは命の営みであり知性生命精神生物質量の自然発生の営みである。

時空間は内在する全てを最適に振り分け取込んで行く。時空間を健全に保つ社会制度は八尋殿により構築される。時空間が時空間に成ろうとする営みを使う。時空間が場に帰るなら承認して帰らないなら承認しない。それは人間が腸脳発電であるかないかを検査すれば分かる。時空と一体なら腸脳に場が溢れ、力が吸込まれていく。当然それは善とは愛とは腸脳発電であるかないかである。人間が生きていく上で文明が悪を排除すれば何をしてもし残りは善ということになり完全なる自由が保障される。

人体が物理的に腸脳発電しかできないなら何をしても善にしかならないはずだ。時空間

の健康度が惑星の状態を計る物差しだ。社会制度が場と連動して猶且つ時空間と連動する。そういう時空間と一体化した惑星になる。

時空間を鰹節にしても、それは富を得たのではない。時空間に守られた自分の存在原因を鰹節にしている。悪人はやがて自分の人生を食いつぶし時空間の自分の根本原理を使い切る。そうすると時空間の支えが無くなる。そうすると時空間に存在できなくなり消えて無くなる。それが時空間の防衛機構だ。自由を守り保証する自然の機構だ。この機構は、時空間と連動し自分の原型に従えば時空間の自分の原型は豊かになり結果として力の自分は豊かになるが、鰹節にすると人生に潤いがない。

宇宙文明に参加するには時空間を健康に出来てこそ参加資格がある。不健全不健康で、未完成不完全では宇宙文明に承認されない。悪がある惑星が精神感応や時空を越える航行で宇宙戦艦を作り宇宙戦争を始めるかもしれないから、宇宙文明は悪のある星には表立って現れない。時空間を完全にやるまでやつてこない。

悪さして平気な自由が罷り通る社会制度は悪に付込まれる隙が社会制度にあるからだ。悪は精神を蝕む時空間病原体である。悪の蔓延る星は決まって社会制度が場と連動していい不完全である。そこで法律で自由を押さえる。組織を作り束ねる。それが戦争を生み出し、やがて滅んでしなう。自由を押さえてはいけなない。

悪が存在できない社会制度を完成させることだ。楽しく生きられる惑星にすることだ。悪が付け込む隙のない自由を保障するには時空間の健全の完成であり、すなわち八尋殿の完成であり人体の腸脳発電の成熟である。

八尋殿の開発は一万二千年前から二千年前までの縄文時代までであった。終焉以降有史

では八尋殿は消された。古代文明のピラミッドやトリスメギストスやアルケミーは有史では先史からの宗教が残っていた時代に、たまにアルケミストが現れたが、有史だけで出来た近代科学では否定され抹消された。だが物質や神霊ではアルケミーは説明できないだけだ。実在する無限を鑑みれば見える。

自由が物理的に保証されるにはソフトウェアアプリケーションの開発が必要だ。アトムオ
ルガナイザー インヤンジャー カルテは地球の存在原因の発動にして目的である。地球
が地球になる。惑星としての地球が相転移臨界を達成し場力が融合する。それだけだ。そ
れには地球人全体が幸せの合意に基づいている必要があり全体で地球の未来を考える必要
がある。それができる。それが型の仕組みが働く者の勤め。型の仕組みを司る者が自分を
支配者にしようとするとき惑星が滅ぶ。八尋殿を改造してはいけない。

善因善果、悪因悪果が型の仕組みなら善は栄え悪は一罰百戒と肌で感じる。ところが、
善因悪果、悪因善果を型の仕組みにすると悪が善を食い散らかし善が減び悪が全盛を極め
る。そこで法律を作り悪を押さえ善を守る。それが支配者を生み出す型となり下克上が起
こり世が減ぶ。地球では良の金神が肩代わりをしてきたから破壊は回避されたが、善人が
肩代わりしても三五教が嘘から出た誠の別室制度の型を出すから混乱がぶり返す。

地球が混乱しながらも小康状態を保ってきたのは良の金神が別室部長の尻拭いをしてき
たからだ。八尋殿の独自性を守ってきた。兇党界は悪因善果の善因悪果の細工を三五教に
させて八尋殿を道彦もろとも潰そうとしたが道彦はい止めた。

歴代の良の金神は悪なる時空間病原菌が地球を滅ぼすためにつけ込む隙が無いように、
社会制度を場と連動するようにしてきた。自由から悪が消滅する時空の持つ八尋殿の本来

の防禦機構を三五教の不当な干渉から守ってきた。それが型となりアメリカやロシアが、総力戦を挑み合い双方が自滅するのを押さえた。

部長が金神に正当防衛を主張するから争いが起こる。日本で良の金神と別室部長が和を以て勝負を決すればいい。時空間が不健全だから悪を押さえる正当防衛が生じる。健康な時空間に争いなど生じないから正当防衛など起こらない。悪果に一罰百戒だ。誰も悪因を押しやなどとしなさい。

善因悪果悪因善果だから正当防衛が生じる。善因が即善果なら自ら悪を成し悪果に苦しむ者などいない。誰も、よその人を襲ったりしない。そんなことしたら人生を棒に振る。正直で自由を楽しんだほうがいいからだ。良心を騙せないことが分かるからだ。

悪人が突如、善人になる。それは出来れば凄い。やってみな。出来るならね。良心に従い、進化を極め完全と共鳴し合い、豁然大悟し、人になる。それは出来れば凄い。やってみな。出来るならね。良心に従い、進化を極め完全と共鳴し合い、豁然大悟したりするかもしれないがね。

善人に成るために悪を極める。それが嘘から出た誠だから、三五教は悪人を優遇するのだ。そんな出来事のことのためにいつまで地球の命を蝕むつもりだ。なんでそこまで地球の時空間を蝕むのだ。時空間に無いから出てこない。無理矢理時空間に取り込ませようとして時空間が不健康に成っている。

自然から天然成分を略奪し、時空間にゴミの後始末を押しつける、悪想念を時空間に放ち、時空間から幸せ成分を奪う、悪因善果の成れの果ての三五教が大成奉還をやめればいいのだ。出来ないんだと認めればいいんだ。どうせ出来ると豪語したのは、ペテン師の前任の

荒御魂の指導者だけだ。

だれも出来るなどと言っておる者はいない。出来ると言った奴が嘘吐きだったのだから初めから出来なかつたのだ。三五教の営みは全部、幻だつたのだ。三五教が深く深く自戒したとき吹き荒れる異常気象のブリザードがやみ晴れやかに暖かいお日様が差す。だが三五教が幻を追い続けられれば破滅だ。三五教が起こす異常気象は地球を滅ぼす。いかに場といえどもこれ以上地球を守れない。何故なら日本が場が使う八尋殿を八王八頭にしたら世界中の八尋殿が八王になつてしまい、場が使う八尋殿が無くなつてゐるからだ。僅かに残つた八尋殿を使い場が介入するも、最早介入できなくなるのも時間の問題だ。

自由と宇宙

日本の内政問題が国際問題とリンクして型の仕組みが働いている。日本人の態度が外交や内政の根本にある。たとえばアザムの話。日本人は定冠詞や不定冠詞だという。ハブと波布。デスとドスとですとどす。こういうと、その違いをはなそうとすると通じない。そのうち、ここは日本だ。日本語で話せ、と言ひ出す。外国じゃねーんだから、外国語で話すな、というわけだ。

そのアザムの正直に腹を立てることが国際問題なんだ。解決策は場と誤差がないしかない。それには表田の字の形だ。それはアとザと無いと夢だが今の日本人には全くない。だが日本人はアザムを使わず内政問題に対応した。それは従わない者はムチと村八分。その一方で従う者にはアメを与える。そうしてなるべくお上には逆らわず角が立たず平和

に暮らす。お上はあまり強引なことはしない。という暗黙の前提で共同体を作った。豊かな自然の中で四方を海で囲まれ島国で外敵の進入を防いだから無事でいられた。だから、国際外交の哲理であり国際問題を解決する外交の奥義が身に付いていない。

型の仕組みで考えれば日本の社会制度が自由を行使して悪が潰れるバキウムシステムを構築出来れば自然に国際問題が解決するはずだ。茶漉しに茶葉をいれてお湯をいれて、湯飲みに注ぐとお茶が出てくる。自由が善悪を濾過する社会制度が表田の正直だ。ところが日本人は他国のように表田の言葉を解決に使わず、外回りの区画整理やロードマップの研究はすれど、外交や内政に応用しないで自由を押さえた上で事なかれ主義で成り行き任せの方法で対処している。

従って外交も内政も問題解決は先送り。それが国際社会で山積み問題の原因だ。部長が金神を潰した歴史だ。解決策は誤差をなくす社会制度であり悪が成り立たない社会制度であり自由が善悪を濾過する善しかない社会制度の構築、それしかない。

各国は日本の態度に注目している。日本が外交で抱える問題が日本の内政と相応の関係にあることに気が付いている。現在、機能している型の仕組みだ。日本がいつ気が付くか見ている。日本の内政の対処の仕方を見れば国際問題が解決できる。内政を解決できねばそれが型になり国際社会は混乱する。外交と内政の相乗効果が型の仕組みだ。

場力と異星の相関係は地の利から良の地にある日本の八尋殿を経由して地球は場力と宇宙と連動する。その証拠が日本の内政と外交の対応の仕方だ。外国が場力と宇宙の真相を隠蔽する型は日本の内政が場力と宇宙の真相を隠蔽する型によるものだ。外国の別室は日本が平和外交地球開国政策を執るかもしれないと考えている。ここが、日本の切札であ

る。

獅子身中の虫や敵のスパイの嘘を廃棄し常世會議の真相を再評価し国祖が仕返しをやめ幽冥界や物質界の虚偽をやめることだ。日本の切札は場力と宇宙の真相である。先人の手で成された超能力開発法やピラミッド トリスメガストス ネットワークはいくらでもある。表田のアザムや表田のエリア88だ。全ての超能力は腸脳発電に起因する。異星人の時空を越える航行システムも精神感應システムもこの腸脳発電だ。当然縄文時代ではみな腸脳発電をしていた。

分かりやすくいうなら訓読みの仮名の一千語だ。それは基本の動作に現れる。祝詞の作り方だ。言語循環律が見えてくる。それが内政問題を直し国際問題を解決する。あちらの言霊はこう、そちらの言霊はこう、だからこういう祝詞になるという言霊の公理で説明する。おおそうか、そうかと、あちらもこちらも、同じよと治まる。

そこで、幽冥界を説く宗教も進化論を説く科学も、神霊や物質は私には分からない。しかし私はもとは宇宙からの移民で歴史が始まったと思う、と言って、みなさんで腸脳発電や場力共鳴や量子呼吸や精神感應や生物質量の自然発生の法則を研究しましょう。どうすれば表田の形に言葉や行動が成るか考えましょう、と言って腸脳発電を起こす体位や場力から染み出した涌水のインセレンス アトムドロン カルチャー ブルー ウォーターを出す。

それは英知を結集しアトム オルガナイザー インヤンジャー カルテのソシアルユウザー インターフェイスのソフター アプリケーションを出せるかだ。外国が日本に期待するの、そこだ。

海外では物質や神霊が行詰り平和や調和を生み出すはずだった宗教が対立を生み、科学は人間性や自然を破壊して科学的真理的宗教的原理を見出そうとして見出すこともできない。なんら解決を見出さない現実には直面している。日本が貢献できるのはそこだ。そこで実在する有限や実在しない観念は分らない。分かるのは実在する無限だ、と言える日本を外国は期待している。

そして日本にはそれがある。それがエリア88であり体位などだ。日本が成すべきことは良の金神が言った平和外交で博愛政策だ。それは場と誤差がない社会制度の樹立だ。難しいことではない。別室の決定しだいだ。民衆にとって有難い政策を実現するために別室が承認するように民は動くべきだ。日本の民が、場を徹し出来るかが、地球の命運を決する。

皆が上手くいく生活はさほど難しくはない。現時点でも出来るはずだ。ただやらないだけ。それはどうすればいいか見えないからだ。完全そのものが見えないのだ。分からないのは感覚が完全とリンクしないからだ。目の前、そのまんまが完全だと見えていない。

それには別室が動くしかない。だが民は別室が怖い、敷居が高い。民が別室と疎遠になるとき問題が起こる。民が別室を使うとすればなんだろう。だが別室は表に出ることはない。上の者しか別室を使わないか。あるいは別室はいちいち下のことなど聞きはせんか。

実はそうではない。別室が独自性を保ち尚かつ民が別室を使う方法がある。それがエリア88を使う大成奉還である。それを元にした生活である。最早地球に戦争はいらない、科学の真理的宗教的原理もいらない。ましてや自然から富を略奪する必要もない。組織を維持するために働く必要もない。下が上に富を奪われる必要もない。宇宙文明との交流を

再開する。

民が使えば別室もエリア88を公開するはずだ。民が使っただけのメリットがあるのか。エリア88の噂が広まればエリア88の正体が宇宙文明からの援助で出来たという噂が出てくるはずだ。エリア88の機能は高位地を作るだけではない。ヒヒイロカネも作るカタパルトでもある。そのライフスタイルが地球を宇宙文明に誘う。この表田の比の使い方を説いても誰もやらん。それが国際問題の原因だ。それを一挙に解決する。

霊界物語に出ていながら出ていないこと

日本が国際社会で相手にされないのは表田の哲理を使わないからだ。アザムの公理を用いた交渉が成らねば外交で相手にされない。今、国際問題となつてゐる諸問題は三五教の政策即ち日本の内政が原因だ。霊界物語では三五教とバラモン教とウラル教とウラナイ教の関係は丁度、日本とアメリカとロシアとテロの関係に成つてゐる。

霊界物語には初代良の金神以降、歴代の良の金神は獅子身中の虫に濡衣を着せられてきたという物語に出ていながら出ていない真実がある。その嘘が霊界物語に書かれているのだ。ということは霊界物語を読んでも、嘘がこうなつた、あゝなつたとか書かれていない。誠の一厘の仕組みの詳細は霊界物語には書かれていない。それが、未編纂の三十九巻の真実であり、常世会議以降の良の金神の真実である。

霊界物語を型の仕組みから表田に分類しなすと、バラモン教もウラル教もウラナイ教も、その現れのアメリカとロシアとテロもすべて、三五教の影のバラル教である。そして

三五教はバカモン教とアナモン教の二つの柱から出来ている。三五教が引き起こした問題はすべてバカモン教に起因する。国際問題もその型は日本の内政問題に起因する。

バカモン教が隠身言霊を潰した。バキユームの真実を消去した。バカモン教は三五教の内部に巣くう獅子身中の虫や敵のスパイの活動である。アナモン教は、歴代の良の金神の活動である。

八十一巻の霊界物語は心霊物語であり、現在の地球は物質で動いている。心霊は実在しない有限や無限であり、物質は実在する有限である。現在には実在しない有限や無限と実在する有限で地球人の世界観は出来ている。実際に必要なのは実在する無限である。

霊界物語の中で三五教大神は神とされる。森羅万象の化身で物理法則を超えた存在かのごとく表される。だが実際は月のリーダーに過ぎない。それを獅子身中の虫がわざと誇張し例えたのだ。大神は偉大だ。だからこそ敬わねば成らないと言われ、月人は一致団結し三五教を地球に広めねば、とわざとオーバーに例え、大神の御機嫌を取って大神の信用を受けた。

出来もしない政策を嘘で出して騙して地球の直霊を弱体化して、地球を妖幻坊の容れ物にしてその責任を三五教大神や別室部長や良の金神のせいにして詰腹を切らせ、その後釜に座ろうとした。

悪意を秘めて三五教の中で隠身言霊を自認するお化け幽霊だ。バカモンスペクターがお化け幽霊で、アナモンスペクターは隠身言霊だ。国祖以来、三五教はバカモン教を採用する。それが型に成り海外で結社がお化け幽霊に成る。お化け幽霊の悪が隠身言霊のせいになされた、善因悪果悪因善果のお化けの世ができた。場と連動してきた先住民の生活技法が

破壊され、大地は悪いものしか生み出さない。人心は荒廃することになる。という事はこの誤差をみればみえてくる。

本来英語ではスペクターもスペルも同じで隠身言霊のことだ。だがスペクターをお化けと訳したのは訳した日本人がアザムを知らないからだ。この誤用をみる。綴りは文字だからそこで表田に分類しスペルは綴りであり呪文だ。スペルを使う人がスペクターだ。

綴りは文字だからそこで表田に分類しアザムで推敲し、それをパトモスする。あのパトモス アイランドのパトモスだ。ザ スカイ コール ナンバーズだ。これが呪術でそれを行うのがスペクターだ。パトモスを科学で説明しようとするのがアメリカの原動力だ。そこでザ オルガナイザーだ、ザ オカルトではないになる。

ところがスペクターをお化け幽霊と訳すことはザ オカルトでありア オルガナイザーということになる。スペクターをお化け幽霊と訳しスペルを呪術綴りと訳すその訳しかたは日本語に隠身言霊が無いからだ。こういうことをいう人がバカモンスペクターだ。こういうのをバカモンスペルというのだ。お化け幽霊はバカモンスペクターのことだ。

これはバカモン教の破壊活動のためにぶつ壊れた隠身言霊のことだ。破壊変換率をみると縄文時代の日本で豊かな自然の中で八尋殿を造営し誰でも超能力が使えた。そういつた中で体内には時空間ナチュラルキラ細胞が増殖し精神は健全でありみなオルガナイザーでオカルトはいない、カルテであつてカルトはいない。だが獅子身中の虫の陰謀のために八尋殿の造営が出来なく成ると隠身言霊が潰れていく。

隠身と言霊の関係は元元、無いの関係だ。お化け幽霊は曲言事霊だ。それがなぜ混乱したか。健康と病気はまったく違う正反対だ。クソとミソを一緒にしてはいけないはずだ。

	バカモン きょう おし 教の教え	アナモン きょう おし 教の教え
アザム	ふくざつかいき 複雑怪奇	たんじゆんめいかい 単純明快
じくう 時空	こわ 壊す	あいぶ 愛撫
すうはい 崇拝	すさのおのみこと 素盞鳴命 あまてらすおおみかみ 天照大神 くにとこたちのみこと 国常立命 とよくもぬのみこと 豊雲野命	てんねんしぜん 天然自然 しんらばんしょう 森羅万象 ばか 場力 ほし 星から星
りそう 理想	ぜんいんあつか 善因悪果 あくいんぜんか 悪因善果	ぜんいんぜんか 善因善果 あくいんあつか 悪因悪果
	うそ 嘘から で まこと 出た誠	な そで 無い袖は ふ 振れぬ
	きょうとうかい 兇党界の ばりき 馬力で しんしゅうがく 神集岳の りそう 理想	しんしゅうがく 神集岳の ばりき 馬力で きょうとうかい 兇党界の りそう 理想

だがなぜか健康と病気の区別がつかない。それは健康を知らないからだ。日常が病気ばかりで健康を味わったことが無いからだ。隠身言霊の愛を知らぬ者は愛し方がわからない。健康が分からないから健康に成れない。ミイラ取りがミイラに成るように、気が付かないうちに曲言事霊に成っていることに気が付かない。

それはネバーとナンの区別が無い。腸脳発電が使えないから健康がわからない。完全に目の前にあるのにわからないということになっている。人類を場や星から切り離し路頭に迷わせた上で重力の井戸の底で戦わせ最終戦争を勃発させる。地球上に封じ込められた人類はなすすべもなくバカモン教に冒されていく。時空を傷つけ天然成分を消費し尽くす過ちに導かれた地球人は過ち故に出来もしないことをさせられてるとは気が付かない。

映画やテレビではお化けや幽霊がおおはやり。怪しげな呪文や呪術で魔法を使う。だがそれは作り事だ。隠身言霊とは関係無い。正法に邪法なし。それは腸脳発電を起こせばわかる。実際の隠身言霊は恐怖ではない。実在するお化けとは時空間病原体や時空間毒素であり。それに感染して発病した患者である。

映画やテレビの妖怪は人間の作り事であるが実在のお化けや幽霊は実際にいる。それは見た目には分らない。物質的に病原菌が見つかるのではない。生命の起源を細胞とする生物学的にはない。それは時空間に由来する。力にあるものはすべて場に由来する。無色で透明な力の時空間。それはやはり構造を持つ。健康が潰れれば病気に成るように時空間を不健全にするとは病気に成る。

無いものを作り出そうとする時に時空間に根ざしているか、いないかが時空を健康にするのか病気にするのかを決める。言霊の時空間免疫系は時空間に根ざしていれば攻撃しないが

時空の鑄型にないものを異物とみなし言霊が攻撃する。当然人間や文明が天然自然の代謝システムに乗っていれば場が支えてくれて健康で言霊の攻撃がない、草の片葉をも語止てだが、それしてしまうと発明発見を支えるために自然を搾取し言霊が攻撃する。

呪術や呪文の使い方は本来は訓読みの奥義だ。それは表田の使い方の奥義だ。それが壊れて映画や漫画の時空間病原体のお化けや幽霊になる。スペクターを幽霊というはまさに壊れた隠身言霊を描いている。日本語に本来の隠身言霊が無い。それは霊界物語の中にある通り、月球人が地球人の神に成ろうとした余波でそうなったのだ。元元それは表田の考え方で場を考えれば管理社会が成り立たないことが分かる賢者明哲の指摘を知らない大神は嘔吐きにここを騙される。

三五教が騙されてから、騙され続けて来た。そのために日本語はエラーやバクだらけ。三五教がバカモン化したからバラル教がバカモン化したから、バカモン スペルやバカモン スペクターがはやる。時空を癒そうと思うなら、バカモン スペル アンド スペクターはペケ。元に帰らねば成らない。

三五教は知らず知らずにこの表田の使い方を避けてきた。当然、それがお化け幽霊とも知らずにアザムを避けることが隠身言霊になる。お化け幽霊を極めてこそ真の隠身言霊と成る。悪因を押してこそ真の善果を得る嘘から出た誠が隠身言霊ということに成る。それがバカモン スペル アンド スペクターになる。だが時空を傷つけて健康が出るはず無い。出るはずがない誠を出そうとして時空の傷口を広げることと正しいことと信じ込ませた。そのために別室が組織した文部科学省は嘘の教科書を編纂する。

三五教が編纂した欺瞞に満ちた教科書は理論上は立派でも時空を傷つける。実際に出来

ないからだ。誰もそれが不正だと知らずに獅子身中の虫は大神を配し奉り恐れ敬い、御意に叶うように采配を振るう。道彦のアナモン スperl アンド スペクターを鯉節にする他人の褌で相撲をとるのが、バカモン スperl アンド スペクターだ。文部科学 スperl アンド スペクターは当然アザムを受け入れない。

場力のイメージ

思考瞑想の対偶が恋愛感情で知覚反射の対偶は運動感覚というようなこういう分類は何でも分類できる。

あんだんての対偶があらゆるすべて、さをはかりますの対偶がいけいかえるの公理に当てはまる。このような認識をたくさん持ったほうが、豊かな文化文明だ。こういうふうな営みを英語や漢語は重要視する。

傷ついた時空に余力は無い。時空を癒すには人間が癒され愛され豊かに成らねば成らない。荒んだ人心の言葉をみれば例外なく、アザムが不明瞭だ。お化け幽霊の言葉はみな、隠身言葉が無い。アザムを認めない分からない使えないのはオカルトに共通している事項だ。犯罪者はみなアザムが不可解だ。時空を傷つけ自らも傷ついている。自然の支えが無い。腸脳発電も無い。常に争う。資本の論理や戦争原理や弱肉強食で動く者はみな時空を傷つけ、時空間ナチュラルキラ細胞が衰弱し良心が麻痺しオカルトに成っていく。

教科書には出ていないがなぜ文字が読めるのかということは考えてみれば不思議だ。なぜ、文字が読めるのか。それは分からない。だが文字をそう読ませる何かがある。なんと

しこうめいそう 思考瞑想	うんどうかんかく 運動感覚
ちかくはんしや 知覚反射	れんあいかんじょう 恋愛感情

あんだんて	いけこいかえる
さをはかります	あらゆるすべて

なくそう読ませるそのイメージがある。そのイメージが文字を認識させる源だ。それにはナンとネバーがある。それを効率よく取り出すのが漢語では無いと夢の字の読みの「ム」で英語ではアとザだ。アザムの単純明快は場力共鳴の証拠で腸脳発電の起動装置だ。

アザムが成らないと時空間免疫系は動かない。言葉はその原型に場があるのだ。なぜそう読むのかはそれは場に由来する。イメージの根源は場にある。そこから力に来るのだから場力のイメージは完全無欠であるべきだ。だが人間は常に完全ではない。場との運動を心がけねば逸れて行く。イメージすれば完全ではないのだ。場と運動すること完全だ。場を介さないイメージは完全ではない。アザムは場と運動する道具であり、場と一緒に用いたとき最高の働きをする。

場は常であり、我我はイメージつまり、触覚を起こす。タッチというものはイメージの根源であつて、それは何だろうと思考することだ。そもそも認識や思索というものは場に向かう過程である。場が働きかけても力に、受け入れがなければ完全無欠は成りえない。力が煩惱しても意味が無い。力がはつきりと場を自覚しなければ場が力に働きかけようが無い。場と力が合致しなければ完全なアザムは生じない。

イメージというがタッチというがアザムというが隠身言霊というが完全完成をなさねばなされない。完全が単純明快したのが表田の形だ。場と一致したのなら円満晴朗な田の字がイメージできる。場が現れるときかならず命題の形に現れる。アザムが命題として表せないならそれは場とシンクロしていない。それが煩惱だ。大日如来と観世音菩薩の胎藏界金剛界曼陀羅が四角と丸なのは表田の田の字を意味し悟りがアザムの有無を超えた無を象徴している。

時空間ナチュラルキラー細胞は円満晴朗な田の字だ。アザムをつかわし円満晴朗か怪しいか、それで高天原か兇党界かがハッキリする。それに対し時空間病原体のアザムはどこか不自然でどこもない。合法であり筋を通して場が無いなら兇党界だ。違法かもしれないが場と連動するなら高天原だ。アザムが円満晴朗になるように法律を改正する必要がある。場力共鳴なら、合法だといって、したい放題で、アザムの場を歪めることは違法とすることだ。アザムが通らないなら改正する。

命いのちと心こころ

善悪を判断するネット

縄文時代まで、日本に神なるものはいない。神が生まれたのは縄文終焉以降だ。神霊界の宗教は一千年前、東洋で完成し爛熟して衰退して行く。そして物質界の科学が起りそれから一千年、西洋で物質の科学は完成し爛熟していく。隠世あの世の神霊界と顕世この世の物質界というふうになつていった。だが縄文時代まで栄えていた場力から見れば誤差だ。まっかな嘘。人類が時空のフィールド フォースを選択するか、トラウマを選択するかだ。

物質界や神霊界は実在しない。精神と相互作用しない量子はない。量子は心と命を持つのだ。そのことは実験すれば分かる。加持祈祷しても効果がない。神霊は存在しない。だが量子が知性を持つことは当然、人間と分かり合えることを示す。

人間も天然の一部であり場と連動して脳細胞は動くはずだが動いていない。完全無欠であるなら連動する。だが場の本体と誤差が生じると連動しないのだ。脳細胞の働きが低下し思うように機能していない。オンオフを排除してアザを選択するはずがアザを排除してオンオフを選択し混乱している。煩惱状態になつてゐる。ではどうすべきか。自然界で人間だけが煩惱をしている。

なぜ人間だけが煩惱するか。人間以外は誤差を扱うことがない。場がこうなら必ずこうする。場のご意向がご意向なのだ。場が上なら必ず上だ。場の構造がほかとは違う。文明を起す無限と直接連動する構造は場から来た人間だけが持つ。この機能構造を受け継ぐのが人の役目だ。日本でも二千年前まで当たり前だったこと。

縄文時代の終焉と共に起こった宗教の神霊。古の賢者明哲は廃れ行く場と力と星からの星の哲理を後世に残さんと宗教を起す。だが古の賢者明哲の場力呼吸と場の完成のために星から星へ生まれ変わる哲理は伝わらず、神霊界に堕ちていった。場力の哲理は教義に変わりやがて神が誕生しその構造は神聖統治権の論理にされた。だが、神がいらないことに民は気付く、神聖統治権が保証する神とは人間の知性や理性であるという科学の物質界になつた。

縄文時代、一万年かかつて蓄積した天然成分を僅か二千年で散財してしまつた。このまま森羅万象に巨大な負債を作り破滅するか、それとも本来の幸せを取り戻すか、どちらかだ。

ゼロセンチの向こうとこちでは臨界を目標し共鳴が起きる。臨界共鳴発電は最終的に人体に向かつていく。超能力は人間の性善の発心にして欲心に非ず。性悪を唱えるは有史の人だ。国家論や資本論などの書き方は有史の記録を総動員して書かれている。それは先史の真相が完全に失われ平和の原理が成り立たなくなり争い支配する有史の戦争原理の集大成だ。

場が失われてから戦争が多発する。戦果が勝組と負組を生む。勝組は負組を支配しついに世界を治めようとする強権が誕生するまでになる。だが争いに勝つことは負けたほうの恨みを買う虐げられた者はテロに走る。だが忍耐を以て愛を説く者は幸いだ。場が守る。場を見る者を場が見る。何をしている時でも、場に見られていても、場様が私を微笑んでる、場様を微笑むやり方をするべーという者が幸いだ。

先史では、争う人に成らないようにライフラインや社会的コンテンツを作る。そう言つ

た争いを好む人は一人前と見なされない。縄文の民は皆、神仙が当たり前だ。それが蓄積されていく。八尋殿の造営が超能力を支えていた。それは場力と星の哲理である。場力の科学、共鳴の宗教である。エリア88のロードマップで高位地を作りピクニックやハイキングで人体を高位地化した。

場力共鳴腸脳発電の元では神通力は性善の発心にして邪な使い方をする者はいない。良くない使い方では場が出ない。望み叶え給へという使い方執着心を持つと場が出ないだけでなく、その強烈な思念の放出は周りの天然自然の調和を、我田引水してしまう。そう

なると共鳴の科学や発電の宗教が成り立たない。大祓い給へ清め給へ祝詞であつて大望み給へ叶え給へ祝詞と言わなかったのはこのためだ。大祓祝詞の行き着く先が大守り給へ幸へ給へ祝詞に対し、有史の国家論や資本論では行き着く先は大喰わせ給へ吞ませ給へ祝詞である。

ゼロセンチの向こうから場は安心して援助できる真善美愛に援助する。場のご意向を汲んで和ませることが超能力の肝要だ。性善の発心が超能力の動機付け。そうでないと強烈な執着心は周囲の環境を我田引水の方向に持つていつてしまう。それが性善の発心の祓い清めて守り幸なる動機付けが成されず、望み叶えてなら行き着く先は喰わせる吞ませろの悪に堕ちる。

場のご意向を汲まない超能力や想念は極めて危険だ。その危険を熟知した先史の人人は常に想念を健全に保ち悪を避け善を好んで行なった。邪な目的のためには場は動かない。場が動けば善なのだ。

先史の人にとって神通力や加持祈祷や神法導術とは場の発露である。それは日常に現れ

量子の振る舞いであり古代人の素粒子物理学である。先史では幾何学、物理学、数学、語学、体育、栄養学、音楽、力学。芸術、など総ての上に咲いた天華である。それは人体に対応し、型の仕組みから日本本土と世界大陸に対応し、八尋殿の原理になる。

それをパスワードに使えば、悪意ある者は悪思想を出す。ログオンの時に想念を検波するからその悪い思念を検波する。システムは善の特徴を示さない悪思想を検波し悪人はシステムにログオンできない。この原理ならシステムに権限を持たせ最高の思念の持主しか管理者としてシステムにアクセス出来ないように出来る。

十分な正直を成した者に十分なメリットがあるが嘘吐きにはメリットがない社会制度が出来来る。こうなれば皆、善に勤しんで悪が無くなる。立派な人ほど大きな権限が持てる。正直と自分の好みの間を取って労働と報酬のバランスを取り、ある程度の生活水準に達したら蓄えて年金暮らし。我慢して働く必要がない。

ないものはない

地球人類は何故、天然にないものを作ろうとしているのか、場力から移民してきた記憶を何故失ったか。権力者は、異星人の援助なくして統治が成り立たない事を過去の経験から知っている。援助なしに戦争を起こし、痛い目にあつたからだ。

問題が生じるのは基本的に場力に誤差があるからだ。問題が解決するのは場力に差がないときである。自分自身の根本原理に由来している限り安定している。自分を自分と認識するのは時空間免疫システムが正常なときである。つまり自然にないものを作ろうとする

と時空間免疫システムがアレルギー反応を起こす。時空間免疫システムは八尋殿であるから八尋殿の中枢がある良の日本は自分に国旗を翻してはいけない。

日本に起きた事が世界に広がりまた日本に帰ってくる。日清日露戦争は異星人の仕組みがあつたが、満州事变日中戦争太平洋戦争大東亜戦争は経綸なき戦争で大日本帝国は崩壊してしまふ。戦争が起こるのは日本が摩擦と滑るの仕組みを行なうからだ。だから異星人が共鳴と統べるを援助する。だが日本が初めから共鳴と統べるなら戦争が起こらず異星人の介入も要らない。日本の別室がないものを求めるから戦争が起こるのだ。

場力共鳴がないと統治はならない。だが別室の存在が共鳴を破綻させる。摩擦と共鳴は両立しない。成り立たないものを成り立たせようとする別室。別室が摩擦による支配を求めてもないものは出てこない。ないものが作れるなら摩擦の支配を作れるはずだからないものを求めるのだ。だがないものはない。そのしわ寄せが不平不満を生み戦争を起こすのだ。

同様に第一次世界大戦、第二次世界大戦は経綸ありた故に収まりがついたが、ベトナム戦争やアフガニスタン戦争は経綸なき故にアメリカもロシアも泥沼に堕ちていった。そこで強国の指導者は経綸なき第三次世界大戦を躊躇する。

収まりがつかない泥沼に堕ち全滅するかもしれないという悪夢が、ちらつくからだ。再び世界大戦を起こせば破滅は回避出来ないという予感是指導者にある。そこが抑止になり大戦の寸前で小康状態を保つ。法律を動かす政治家や法則を使う科学者の言われるままではなく、地球人類は戦争にノーというべきだ。

一人の人間として場力に鑄型が在るのだからそれを使うだけでいいというべきだ。使え

ば分かるから真理真相なら民の間で広まる。その単純明快をなすのが本来の政治や科学の役目だが生物質量の無い今では科学者や政治家が動植物を潰しをしている。これは遠い昔の移民政策に問題があるからだ、今、生きてる我々にそんな大昔の事で災いが降りかかるのは馬鹿げている。迷惑だ、やめてくれ。こじれにこじれた人情を今更解きほぐすのは難しいが、地球をまともに動植物が回る星にする事に異議はあるまい。

確かにこれでいいとは言えまいが世が立つのだから勘弁してください。良い方法はほかにあるかもしれない。しかし私にはこういうのしか出来ませんでした。どうぞ立派な方法で成し遂げてください。世の中が良くなるのだからすいませんが認めてくれないでしようか。これが絶対に正しいとは言えませんが役に立つとは思いますが。異星人でも惑星の移民が進むとエゴの対立は必ず起こる。しかし例外を除いて大体動植物生物質量に辿り着き宇宙に進出していくという道筋がある。

だが例外もある。それはその星の人間が時空間病原体に汚染され病んで自滅してしまう場合だ。昔、病気になるのは悪い靈魂がついたためだと言われた。だがそれは靈魂ではなくストレスや病原菌や毒のためだと考えられるようになったが、実際には毒や細菌やウイルスやストレスよりも、もつと根源的な有害な時空間病原菌や時空間毒素のために病原菌やストレスが起こるのだ。

権力争いに明け暮れるものたちが自戒するとしたら自らの闘争が自分が病んでいるからと気づくしかないだろう。真相を知りながら臭いものに蓋。それでしらばつくれる。だがその隠蔽したモノが腐敗して汚染を引き起こしているのと知るべきだ。逆らう者を成敗してもその悪思想が時空間病原体の温床に成っている。それと同じで今の地球人は、時空間の

悪化が人類や環境に悪影響を与えていると知らない。

今時の支配者は、政治の法律で人類を抑え込み、科学の法則で物質を抑え込もうとするから当然違反すれば無理でも押さえ込まれてしまう。それが悪想念を生み出し時空を腐敗させ時空間病原体が暴れ捲り人類は時空間伝染病で滅亡の危機に直面している。指導者は支配のために統治のために強権はやおえずと考える。それは時空にない。そこで組織を結束させるために強権を使う悪循環が地球の時空間の環境を悪化させ時空間病原体の温床になつてゐる。

権力者は知らず知らず生き物を蝕み、科学者も政治家も宗教家も時空間病原体の温床になつてゐる。彼ら支配者たちが自分が汚染され狂つてゐる事に気が付くか。それが大きな節目になる。時空間の健康はまともな高位地である。高位地で最も重要なエリアは東北である。地球の東北にあるのは日本だという事は日本の指導者が世界に先駆けて支配を撤回し国土を高位地化する政策をとれば、世界中で高位地化政策が出る。日本の国土が病では世界の高位地は潰れる。

日本の国土に住む人は自分が場力共鳴する振る舞いを取れば世界が高位地化して、共鳴の邪魔をすれば地球を病気にしてしまふと知るべきだ。日本の指導者がその実相に気付く場力共鳴政策を取れば地球のすべての指導者が場力共鳴政策を取る。日本人が動植物を生産する政策をとれば世界中の民は誰も飢える者はいなくなる。これは時空の構造上地球の東北にある日本国の固有の性質に因るものだ。

それは国土を高位地化する事だ。それが出来れば時空間は健康を取り戻し時空間ナチュラルキラー細胞が働きを開始してありとあらゆる、ありとあらゆるを健康にして仕舞う。

地球人類が場力共鳴に進めない心の蟠りは、汚染された時空間で繁殖した時空間病原体が人類にいらぬ悪意を起こさせ人心を悪化させそれを臭いものに蓋という支配者の常套手段が、時空の汚染を拡大し被害を拡大したからだ。

支配階級は支配など出来ないと知るべきだ。法律や法則がどんなに進歩発展進化しても所詮有限だ。無限を支配出来ない。それをいうのが良の国土に住む人のつとめだ。元はと言えば権力による支配を考えたのは最初に移民をしてきた人人のリーダーだ。そこで誤差を修正出来ていれば良かったがそこに時空間病原体が悪さして地球人や月球人も知らぬ間に汚染されてしまった。だがまだ、地球は滅びていない。無限の存在なら誤差を修正出来る。

今、夜空を見上げてごらん。漆黒の闇の向こうに場が控えていてゼロセンチのこの向こうにも場がある。なら大丈夫だ。我我は満たされている。人生、無駄はない。無限は失われたすべてより多くを報酬として用意した。それが転がっている。今、共鳴出来れば実り多い。異星人も感謝感激雨あられ。喜んで同胞と向かい入れてくれようぞ。人生間違っていないかった。愛の喜びに満たされる。命が踊り天使が舞う。

人類は不潔な環境を拒否する権利がある。幾ら大義があつても公害で汚染されているのに我慢しろという権威に断固反対すべきだ。三五教は何で支配を考えるか。古代に端を発する権力闘争は地球の支配を考えるとどこまで来た。ここで言いたいのは権力による支配は戦争を生み、その戦争を押さえ込むために更なる巨大戦争を生みそして地球を支配する権力の樹立まで来た。

それは時空間にない。そこで森羅万象を頼るに値せず。宇宙文明には支配がないなら頼

りに値せず。我々が宇宙に先がけて権力による支配を打ち立ててくれようぞ。我らはその先兵に過ぎないという考えを地球の支配階級は起こす。そして権力掌握の常套手段の危機を演出し人心をまとめようと考えてる。

それが時空間病原体に冒されているのだ。だから真相が、真理が、真実が、見えない。悪夢を見て疑心暗鬼に取り憑かれ怯えているのだ。これはもう地球の良の国土に住む人民が国土にある場合共鳴機構を再稼働させ、国土を高位地化し、元素転換で動植物を生産し、知性生命精神を自然発生させ生物質量を循環させるしかない。病気より健康のほうがいい。だが時空間の健康を考えないから権力闘争の弊害に気が付かない。

争いが精神を腐敗させ、人心を荒廃させ、物質が時空との精神の交流を遮断し、人心を荒廃させ、時空間病原体が暴れ回る事になったと知るべきだ。支配なんぞ、ただの夢、幻だ。考えてみな、十人十色の人間を単一の基準で割り切れるはずがない。言葉の上でしか存在しない観念が見た幻だ。

観念自身が幻だ。エゴはそのことを認めない。それは自分は自分だ。我思う故に我ありだ。それが幻であるはずがないという。その通りだ。そしてそこから無限を見るか見ないかの分かれ目だ。無限と連動出来ないなら大地に根ざさないタネだ。無限と共鳴し、場に根つ子を持たねばタネは発芽しない。

エゴが時空間に存在を拡張した時、人類は人類に帰る。自分の正体に気が付かず一生を終えてもそれは発芽しないタネ。地球という星自身も発芽して場に根つ子を伸ばそうとしている。それを人類に邪魔する道理はない。発芽しない人類が発芽することの無い王国を打ちたてようとしても地球の発芽を妨害する道理にはならない。

地球人類が発芽しないのは時空間が汚れているからだ。タネは発芽するのに必要な温度や水分や根を張る大地がないと発芽しない。タネが落ちたのがアスファルトの上なら発芽しない。時空間が人類にとつて揺り籠で無いから人類は発芽しない。それは人類が高位地を作らないからだ。天然を消費して時空間の悪化を省みないからだ。汚れた揺り籠で人類は病に冒されている。これは健康な母親に抱かれれば一撃で直る。地球の良の国土を指揮する指導者は共鳴構造を樹立することを考えるべきだ。

日本の国の特徴として日本は地球の東北、世界の良にある。共鳴構造は、時空と地球と人間のループを作る。そこに共鳴共振構造が生じた。人体と大陸の共振構造は森羅万象が人間を生み出すように出来ている共通のコードで動いている。

誤差が生じさせる問題

人間の出している想念やイメージというのは知性や生命や精神の産物である。心静かに考えようとしても落ち着かない。落ち着くとは活動が最低まで落ち込むことではない。場力共鳴が臨界に達することだ。精神の平静や調和は腸脳発電以外にはあり得ない。無限を有限に置き換えることは出来ない。有限で無限と隔離された社会制度では人類は精神の平静を保てない。

社会制度が人工より天然を優先する社会制度なら問題ない。しかし人間のつくった人工が天然に取って代わり人類は完全に無限から隔離された状態だ。近代的なビルの中で人類は場の栄養を摂取出来ず場の慢性的飢餓状態でいつも何故か分からず落ち着かずイライラし

て何かに追われている。結局時空を通して無限を見ないからだ。これは原理である。量子の温度を下げて絶対零度より低くならない。量子を冷やして体積が減少しても無くなったりしない。一個自体が無くなりはない。

量子は存在するだけで場力に構造を持ち共鳴構造を持つ。場がない力のものを幾ら作っても共鳴構造そのものを人類は作れない。人類が森羅万象と誤差がない共鳴構造を作ることを場は人類に期待している。存在自体がもうすでに共鳴構造になっている。共鳴に特殊なデバイスはいらぬし知性生命精神生物質量を自然発生させるのに特殊な装置はいらぬ。天然にある物を使う。場と連動し無限と連動するには人工より天然を優先する必要がある。

地球の地理的構造上、場の量子は力の日本に繋がる。胎児の臍之緒が、大陸の日本に当たる。量子の出入口に日本はある。山ばかりの日本は八尋殿の集積地域だ。日本と世界は共鳴構造であり、量子一個も共振共鳴構造を持ち、力に現れる物は場に根つ子を生やす事も出来る。これは力が完全に閉鎖された密閉された閉鎖された時空間ではない。バキュームやストロンチウムと出入りしている。熱力学の第二法則はこの宇宙が完全に閉鎖系だと前提にした場合だ。

無限のバキュームのゼロセンチの向こう側と共鳴を通じて通信交通しているのだからエントロピー増大の法則は成り立たない。物質は量子より小さく成ると成り立たない。宇宙は開闢するまで物質の論理は成り立たない。実際には量子より小さい存在しないのゼロセンチの向こうから無限と連動してくる。無限と代謝しているのだから熱力学的平衡の死は存在しない。

当然、場力共鳴は無尽蔵に電力を供給する発電システムなどを構築する。エネルギーの拘束から社会が解放されれば社会制度は大きく変わる。半導体の増幅作用を用いたトランジスター発電や腸脳発電は無限を前提とした量子呼吸の代謝システムである。そのシステムが原理的に分かってくれば場力の量子の流れが見えてくる。どこで何をするか。ここに何を置くか。いつ、それをすべきか見えてくる。どこにどんな流れが来ていて、その流れにはこうすべき、ああすべきだ、と見えてくる。

量子呼吸の循環システムの八尋殿と循環媒体としてのヒビロカネが見えてくる。環境を美化するエネルギーシステムが見えてくる。場には文明や文化もあり人間が生活していることが見えてくる。宇宙の個々の星には文明があり惑星間には宇宙船が飛び交う。それは場と力の関係の写しである。力の超銀河団全体に文明があると認めれば型の仕組みから場に文明があることになる。

完全なる人生を送る理想社会を模索したら結果的に完全無欠と誤差がないが完全完成であることに気付く。幽冥界と物質界は誤差から生じた不完全未完成な思想であることに気が付く。無数の選択肢から有効な二手三手を選び推敲するのでは不完全未完成。あれとこれを合わせてこうしようというのがうまくいかない見本だ。何故ならば完全無欠と誤差がない最高の一手以外にうまくいくがないからだ。

今までは月人の中にも獅子身中の虫がいて月から地球に悪さしてきたが地球人の中にも不正に気付く行動を起こすものも現われた。地球の場の正直を追求しついに月人の内部の獅子身中の虫の悪さを食止め、誤差を修正する道彦のようなおかたも現われた。

地球上で起きる問題も宇宙で起きる問題も、その根源にあるのは場力の誤差である。そ

の解決方法は地球も宇宙も同じで誤差の修正しかない。誤差が生じるのは場力を断絶するからだ。呼吸を考えればけりが付く。室息したくなければ換気する。神靈に祈願しても、神靈はいない。古の賢者明哲はだれも神靈の神を説いてはいない。無限の過去から連なる宇宙文明のネットワークや場力呼吸腸脳発電を説いた。地球も共鳴装置を作り生物質量を生産しなければならぬ。

現世利益の金儲けに惑わされるな。お金は貧富の格差を生み奪い合いを起すだけだ。みな、上に這い上がるのと下克上になる。そんな戦争原理をしてはいけない。無限と連動する共鳴構造を守り清明を盛んにし天然のサイクルの場力素粒子加速器を回し動植鉱物の蓄積が人類の役目と説いたのだ。

共鳴技術が確立出来ていないのに、不完全未完成的知識で天然自然を人類の都合で改造してはいけない。人類の都合の良いように法律や法則を作ることをするな。それをするとな然成分の減少に歯止めが掛からない。人類は目先の欲に血眼になり自然を狂わし滅んでしまふ。

無限との連動が出来るようになるまで資源の無駄な浪費をしてはいけないと言った。これはどこの民族の古の賢者明哲も行っている当たり前のことだ。それを場力と星のことがわからなくなつた後世の人が神靈界や物質界をでつち上げた。そしてでつち上げた法律や法則や倫理体型を既成事実とし地球を支配する権力を樹立し人類はすべてを超える、自分たちは宇宙さえ超えてすべてを支配する権力の先兵に過ぎないと大見得きる支配者たちが、地球を支配する権力闘争社会になつてしまつた。

先史の遺産

伝説と神話で古の賢者明哲の起こした偉大な奇跡、様々な予言、卓越した知性、高潔な人格、こういつた事が実話であろうか。実話なら賢者明哲の起こした偉大な奇跡を起こして見せる。賢者明哲は超能力を使い神の教えを説いた。それなら超能力を使つて見せる、神とは何か、人とは何かの定義を証明して見せるということになる。

超能力の開発も、神とは何か、人とは何か、霊とは何か、気とは何かという問の本質は定義とはなんぞやだ。定義には言葉での定義と行動としての定義の二種類あつて、言葉の定義とは、概念上での考え方だ。行動の定義は実際にどうするかである。

神と言つても所詮人間の言葉に過ぎない、言葉はあらゆるすべて。実在するあらゆるすべては無限のかなたまで。それは場力。神とは場に原型があり力で神にあたる何かが原型と寸分違わぬ時、場力共鳴している神といつて何かを神と表現するのだ。

現代人は賢者明哲の超能力をなんか物凄いことのようにいうが、先人たちは超能力のこととを、真理と一体化の余技に過ぎないといつてゐる。場力共鳴量子呼吸腸脳発電の副産物に過ぎないといつてゐる。腸脳発電が出来さえすれば超能力は使いこなせる。腸脳発電が出来ないから現代人は先人の教えを理解できないのだ。

実際にムーやアトランティスがあつたなら前世界の文化文明の残骸が残つていそうなものだ。人工衛星が写真を取りまくつてゐるのに、そんなもの発掘された試しがないではないかという。だが伝説と神話の前世界の文明文化は天然自然と誤差がないのである。ということは我が天然自然と呼ぶものが前世界の文明文化そのものだ。自然環境とか呼んでい

るものが前世界の文化文明の残骸である。前世界の文化文明の残骸の中で我我は、万物の霊長と粹がつているに過ぎないのだ。

前世界が滅び、生き延びた人々は災いを繰り返さないように文化文明が天然自然と誤差が無いように無いようにと、細心の注意を払い、明らかに人工人造というものはナンセンスであつた。従つて先史の遺跡を見ても美しい自然だまで終わつてしまふ。

古の賢者明哲が崇高な人格を有し卓越した超能力を発揮したのは、先人たちがいうように、私は大したことはしていない、ただ私は私の正体に気が付いている。貴方も貴方自身に気が付けば私以上のことは必ず出来すよといったように、先人の教えが場の本体のこゝろとだと気が付けば当然、場力共鳴に氣付いて量子呼吸に氣付いて腸脳発電に氣が付く。そうすれば生物質量の自然発生のことであつて、その生活技法の習得を始める。

偉大な奇跡を起こした先人はみんないつている。自分の正体に正直すれば彼方も今すぐにも私以上のことが出来ると言っている。それは靈魂のことだと言われてきたが正確には場のことである。靈魂とは先人が失われ行く場力と異星の真相を後世に残そうとして寓話として言つたことが、蓄積されて出来上がった教義が産み出した空想の産物であるから、先人は觀念の靈魂を説いてはいない。それを誤解した後世の人がどれほど修行を積んでも奇跡を起こせない。

先人の賢者明哲は腸脳発電さえ出来さえすれば、超能力くらい誰でも使えると言つていゝ。神の定義も氣や靈の定義も超能力の実用も結局は、場力共鳴、量子呼吸、腸脳発電に行き着き、表田のエリア88や表田のアザムに行き着く。それは生物質量の自然発生であり、場力と異星の真相に行き着く。

科学技術は森羅万象と誤差がない、文化文明は天然自然と誤差がない、これが本来の姿であるが、国祖の誤解が産み出した大成奉還が、誤差を産み出す。三五教の内部の敵のスパイや獅子身中の虫は、内部の賢者明哲や良の金神の意見を別室部長に誤解させることに成功する。それが型になりアメリカやロシアも内部の賢者明哲や良の金神を軽んじ兇党界の息のかかった連中を重宝がる。

地球の力で悪が蔓延り、悪という毒が栄えるその中で、解毒剤である無限と連動した善が地球を癒す。それこそ、幸福であり幸せである。それが先人の教えた。先人は戦争原理を追求すれば地球が減ぶと預言した。競争原理による自然淘汰が提供するサービスは確かに科学を進歩させ物があふれるほどになった。だが、本来の最高の一手からすればサービスは最高の一手だけでよい。従ってあふれるほどのサービスや物は、ただのスカでしかない。当たりは初めから場で確定し、当たりと誤差がないだけのサービスでよい。

つまり競争原理でサービスの選択肢は増えるが、当たりは一個で増えたサービスはスカなのだ。戦争原理は誤差を産み出し、産み出した誤差を多様なサービスとして宣伝し、外れくじを宝くじと言っているのだ。つまり無駄なことをしているのだ。そして多くの人に無駄なことをさせ、その上前をはねる者が隠れて更に民に無駄をさせ更に上前をはねる。

やがて富や権力を手中にした者たちが覇権を握ろうと下克上を起こし、ついに破滅してしまうという実に鋭い指摘をしている。先人はそうなたった時のために場力と異星の真相を後世に残そうとしているのだと言っている。先人が奇跡を起こし教えを残したのは見せておけば言い残しておけば記録は残る。後世の良き人が記録を見れば場力と異星の真相に気がつくだろう。権威や既成概念に押しつぶされる者もいようが、私たちがそうだったよう

に自分で道を切り開く者も出てこようといっている。

言葉とはなんぞや、神とはなんぞや、言霊とはなんぞや、霊や座とはなんぞや、生命とは、物質とはなんぞや。古の賢者明哲の予言は本当か、偉大な超能力を本当に発揮したのか。これらは場力と異星の真相を物語る。

成り立たない三五教

死後、森羅万象が清算に入る。その時、誤差がなければヒヒイロカネに利子が増えて豊かになるが誤差があれば負債になり借金取りに襲われる。場力にはすべてが記録されている。未来は今、作られる。現在過去未来の運転は妥協や偶然の産物ではない。時空の発生には理学的な法則がある。場に原型があるからには、力の死は一過性のものだ。力にバグやエラーを残して死ぬと、ラグって場に帰れない。行き着くところが地獄だ。幽冥界は無い。

心霊は後世の人の創作である。有史の黎明期、廃れ行く先史の英知を嘆き、何とか後世に残さんと賢者明哲は苦心して教えを説いた。それが誤解されて団体の団が生み出されたのだ。

団体の団を結束させるために敵と戦い勝つことや、心霊の概念が必要だった。神武天皇がそうだ。平和原理を守れと言ったアシア族や長脛彦を中央集権国家樹立のために敵として葬り去る。だが倭国系の現行の政府は平和原理を屠ったが故に戦場の泥沼に落ちた。別室は始めからヒヒイロカネと八尋殿の敵対者である。天地の律法五情の戒律を論破し

たウル教が宗教として大成した。バラモン教が自由行動天則違反三五教教義天則遵守を論破して科学として大成した。しかし三五教はヒヒイロカネと八尋殿を求めながら拒否している。

賢者明哲たちは、別室の超絶性を証明しようとした。腸脳発電の量子呼吸を吟味すると場力共鳴になってしまふ。しかし別室は場力摩擦だ。場と力と星から星へは共鳴だ。別室は共鳴を摩擦で支配しようとしている。それは摩擦が共鳴より正しいと証明されなければならぬ。共鳴のほうが正しかったら部長は天使ではなく悪魔になってしまふからだ。

三五教の賢者明哲たちは国祖が悪なはずない。大成奉還別室制度が間違ひのはずがないと頭つから信じきつて、疑う余地がないと信じて摩擦の超絶性を証明しようとした。部長に他人の共鳴を停止させる権限は、部長の共鳴こそ正當な共鳴であり、部長に従うことが天則であるという三五教教義天則遵守の大前提になる。だから正しい方向に向かうために摩擦で他人の共鳴を押さえて部長の共鳴に従わせる超絶性になる。

三五教はそれを信じて証明しようとした。確かにその通りだ。だが証明できない。なぜか、証明できないからだ。共鳴は場にある本体と一体化することだ。本来、共鳴であつて摩擦ではないからだ。

三五教の教義は証明できないということを道彦は論破した。禽獣虫けら草の片葉さえも場力共鳴である。それをなぜ国祖が仕切るといふかいね。三五教が勝手に決めて無理矢理したがわせたに過ぎないではないかと論破した。つまり共鳴を管理するということは出来ない。すべては森羅万象であり、自由に共鳴できる。それを管理するのは間違ひである。別室の超絶性は証明できない。宇宙に絶対人格創造神はいない。

国祖に合わせるために国祖が他者の共鳴に摩擦で干渉することは犯罪である。何人たりとも共鳴に口出しできない。それが自由である。三五教教義天則遵守自由行動天則違反は大間違い。

それが霊界物語の真実である。賢者明哲が腸脳發電を研究し場力摩擦を目指しながら、ついに果たせなかったのは当然である。かつて平行線の公理に手こずった学者と同じで、三五教に不備があるはずない、国祖は絶対の存在だという、自負心が三五教を誤らせた。証明できない公理の出来ない政策の実現のために無駄な努力をさせ、回収できない巨額の不良債権を生み出したのだ。

ゲーゲルの不完全性原理やハイゼンベルグの不確定性原理では誤差がある以上人間の作る国家に正しい判断はくだせないということになり、白を黒と巧妙に主張する団体の団が理屈やお金や武器などで相手をやりこめることに心情的に反対できても押さえることができないのだ。

場力共鳴を摩擦で押さえたために、実際に善とは何か言霊とは何か神とは何か霊や座が何かを証明できないからだ。宇宙の原理は場力共鳴だ。摩擦ではない。心霊や物質は実在しない。実在するのは観念や有限ではない無限だ。無限は混沌ではない。我我より遙かに進化した実在だ。我我のふるさとである。だが、国祖以来三五教は八尋殿やヒイロカネや霊や座の場力共鳴を大成奉還の名の元に、三五教教義天則遵守自由行動天則違反を盾に禁止した。

平行線の公理の証明と一緒に、出来ないんだと認めればいいのだ。出来もしない教義の証明に無駄な努力をさせた。場力は共鳴だとなれば、なすべきことは見えてくる。別室が

大成奉還の理想をやめることだ。三五教の賢者明哲が誰でも心の中で思いながら恐れ多いと口に出せなかったこの真実こそ残り三十九巻の真実である。宇宙文明に至る道である。お金儲けつまり場力摩擦が生み出した物に一体、何の有り難みがある。天然自然成分の抜殻に過ぎないではないか。ただ安く大量に作り高く売るために体力を消費し精神を苦しめ我慢して手に入れたお金で、手に入る商品はやはり怨念の塊である。身の周りの商品は苦役を我慢して作られた怨念の塊だ。お金儲けは労働の美德を食い潰しお金にする。こんなものしか生み出さない。

怨念に囲まれて楽しいはずがない。お金儲けで無限と連動するはずない。無限と連動するならヒビロカネがあふれているはずだ。野菜にしろミネラルはないし酵素もない。しかし科学的に安全だとして売られている。家だって場の支えがなくなれば支えていないのに安全な建物として売られている。場力共鳴の不良品が溢れている。

テオクラシーとアルケミー

テオクラシーとかアルケミーを空想というのは実在する無限を見失った後世の人の創作である。実際には場力と星から星への真相であって、実在しない観念の心霊界を崇拜する宗教団体の団や、実在する有限の物質界を研究する科学の殿堂が蘊蓄しても実在する無限にかすりもしないから説明できないのだ。

そこで生物質量が出て来る。我々の地球人の文明は物質で出来ているが、それを捨てる必要はない。なぜなら実在する有限であるがそれをそのまま使えるからだ。つまり物質の

単位をそのまま動植物の単位として使えるし、量子論や相対論も使い回しがきく。地球では想念動力と連動していないだけだからだ。

地球の文明を天然自然のマザーボードの一部と見做せば地球の文明も自然の一部である。そこが天之岩戸開きだ。そこで、どうするか。実は無限にはその方法があるのだ。地球人の側で無限と連動すればよい。それは人間が場力共鳴できれば良い。その方法は、賢者明哲のおかげで成り立った。

宣伝使たちは宣伝歌を歌いながら八王八頭の周りを布教旅していた。それは宣伝歌とは表田のアザムであり宣伝使たちは各地の八尋殿を表田のエリア88で結んでいった。そうして腸脳発電を起こしながら気を練り各地をイヤシロチ化していった。地球全体をエリア88で繋げようとした。

先史のライフスタイルはヒビロカネと八尋殿であった。八尋殿はヒビロカネの生産プラントであり、癒しの医療装置でもあった。それは巨石を用いその間にフィールドフォースを発生させていた。それは場力共鳴を動力源とし巨石を用いた噴出口と取込口を作り、量子呼吸でフィールドフォースを発生させていた。その巨石は大抵二個で一つであり、一つの周りをめぐりそぼの別の巨石をめぐり8の字にめぐる。

そして離れた場所同士で一对同士のエリア88を描くことで高位地化していた。そして八尋殿を巡るエリア88が人体を腸脳発電状態にする。エリア88を使うことで量子呼吸が成り立つ。だがそれだけではない。人体の腸脳発電システムを起動させる条件を満たす方法を構築していた。それが有史に成って場力共鳴が失われ形式化形骸化し宗教団体の団の行法になつていった。現代の宗教団体の団や科学の殿堂や国家権力の推奨する方法はほ

とんど腸脳發電の効能が無い。

先史の遺跡をみれば先史の人人が腸脳發電を楽しんでいたことが分かる。先史の経済は完全無欠と誤差が無いでありイヤシロチを拡大するためにあつた。需要と供給の関係はどういう場力共鳴であるかで決まっていた。

物体としてのヒヒロカネは、金属元素である。錬金術のいう賢者の石のことである。元素は基本的に皆同じで原子核の周りを電子雲が回っている。金属元素もそうであるが、場力からの情報やエネルギーの供給で元素自身が成長する。それがヒヒロカネだ。

限りなく高品位な場力共鳴の起きているフィールドフォースの中にどこまでいられるかというのが人生である。完全無欠と癒着することで情報やエネルギーを金属元素は取入れ本来あるべき姿に変わっていくのが場力共鳴量子呼吸元素転換である。

当然、鉄から純金を作ることとも出来る。希少金属も思うがままに作りだせる。ステンレスの浴槽と同じ価格の純金の浴槽も作れる。自宅に元素転換装置で薄い膜の金属から金箔を作り食後のデザートにすることも可能だ。

お金のことを紙幣や硬貨の通貨だけではなく有価証券もいうようにお金は実体としてあるだけでなく、概念としてのお金もある。それと同じくヒヒロカネも実体だけでなく、思想としてのヒヒロカネもある。先史では決済は場力共鳴かどうかで決まる。先史のあきんでは需要と供給の関係を場力共鳴から割り出していた。

天然自然の要求を省みて春夏秋冬の移り変わりを予想していた。どこで何が必要で何があまり何が足りないのかを知ることが出来た。鍛え上げた腸脳發電で成長した命と心は、森羅万象を読み書き算盤して生産や流通を的確に把握できた。

量子も意思を持っている。当然場力を通せば量子一個一個とも意思疎通できる。量子は知性生命精神が表れたものである。そこで生物質量動植物想念動力量子が回路の配線の中で、自由に動けるように出来れば精神と感応するコンピュータを作れる。量子呼吸する装置を作ればよいのだ。

房中

腸脳発電には二種類ある。生体腸脳発電と生殖腸脳発電である。生体腸脳発電は基本的な一人で行なうが、生殖腸脳発電は男女の共同作業である。生命の進化は生殖で起こる。単体で腸脳発電を起こすより愛の極みのほうがよい。それはデオキシリボ核酸の最適化が起こるからだ。

減数分裂した生殖細胞が融合し受精卵になる。そのデオキシリボ核酸が融合する過程で配列の最適化を起こせる。それは本来受精卵は場に原型があるから力に生を受けたのだ。それならば無限と連なっているはずだ。そこで配列を無限とリンクさせる生殖技法が必要になる。

そこで男女の愛の腸脳発電が必要になる。生命の設計図は場にある。生命の設計図やエネルギーは場と力のキャッチボウルの量子呼吸で成り立っている。生殖細胞が受精卵になる時にフィールドフォースの中で受精するかである。愛のフィールドフォースを発生させ、ハイパーインヤンジャーグリスボジションをどこまで維持できるかである。

實際の誤差

生命の最小単位は細胞であるとか、物質の最小単位は量子であるとか、いうことになっている。意識は脳細胞の代謝に過ぎないとかいうことになっている。その範囲は有限である。ところが有限であるということはそこが摩擦の限界になる。このことが意識を発生させないなら、発芽させるにはその反対をすればよい。悪を善というから分らない。皆が損して上前をはねる政策しか出来ない外れくじを宝くじという騙しの現在の発想が悪であると考えればいいのだ。

だが人類の営みは無駄であろうか。アトランティス、ムー、ミヨイ、タミアラのような古史古伝や靈界物語も伝説や神話の中の滅んだ文明は無駄であつたのか。ピラミッドトリスメガストスや八尋殿やヒイロカネも先史の場力送受信機である。どのように機能していたか。先史でも悪があつたが悪以上に悪を清める作用があつたのだ。つまり完全無欠と強固に癒着さえすれば悪があつても浄化できる。

理論上、場力共鳴と無限大に癒着さえすればどんな悪や犯罪でも無毒化出来る。それならば悪がはびこる地球でも、地球は現在でも存在し、人類は生息している。文明や文化が花開いている。それならば地球には蔓延る悪を飲み込む悪の容量があることになる。悪満タンクローリーの今の地球でヒイロカネと八尋殿を造営できれば良い。

その最大の障害は別室だ。なぜなら国祖以来、良き個人の警告を三五教内部の悪人のために別室が聞き入れないからだ。戦前の王仁と東条英機の関係を見よ。王仁は別室に過ちを報告したが結局大成奉還と承認されない。靈界物語にもその型になった道彦の常世会議

の話が出ている。

大成奉還を人間が行なうという三五教の理想が欠点だ。それならば大成奉還を場が管理するように改造すればよいのだが、それはこの話を別室がどう判断するかである。かつて程度の差はあれども進化の段階でこの星でも今の地球のような状態になった。そこから管理社会を乗り越えて自由な宇宙文明に進化した。

ところが霊界物語では八王八頭が無限と連動していない。そこで現在の八王八頭も、やはり無限と連動していない。しかし、賢者明哲の積み重ねが無限との連動を可能にした。結果論から言えば大八洲彗命や道彦らの実績がもうすでにそれを可能にしていたからだ。つまり大洪水や大戦争で破滅する必要はなかった。第一次世界大戦、第二次世界大戦で二つの前の世界の滅びの型は出た。これ以上争うことはない。

国祖の周囲の賢者明哲が国祖に警告した内容が現実化したのが、賢者明哲は国祖が付かなかつた、評価しなかつた正直の実績を作り上げていた。国祖以来別室が正当に評価してこなかつた実績を使えば万事解決である。その実績を三五教の別室が再評価し、正当に評価すればよい。地球の良いところは三五教が評価しなかつたそこにあるのだ。悪満タンクローリーの地球に妖幻坊がいる。時空の病は地球を汚染している。だが無限なら病んだ地球を愛してくれる。癒せるのだ。

国祖の側近の賢者明哲たちが時代にあつた神政をと言つたその意味は天然自然の変わり国祖自身を中心に据えるのは間違いだと言つたのだ。八尋殿は本来場力共鳴装置であるのに八王八頭は機能していない。

八尋殿は八尋八殿で八王八頭もエリア88である。それは巨石の周りを8の字を描く。

巨石はいくつかあつて、その周りを8と8の字を描いて田の字を描く。そうして地球をエリア88で包んでいくはずであつた。だが場と連動するはずであるのに国祖が八尋殿から場を奪つた。イヤシロチは無限が成す。人間は自然のお手伝いをするだけだ。賢者明哲は無限以外に中心をなすことが出来るはずないと国祖に言つた。国祖自身に天然自然の肩代わりが出来るはずがないと言つた。

文明は人間の研究開発能力つまり知性が生み出したが知性の元は天然自然にある。健全な思考力は完全な場とリンクして初めて発揮される。それなら文明文化も健全な時空間を元にしている必要がある。それなら時空間の作用で思考するなら文明も天然自然の作用で成り立つことになる。人間も文明も自然の中にあることになる。宇宙には人間や文明を生み出す作用があり、どの星も人間が生存可能な環境になつていく。つまりどの星にも大抵文明がひらけていく条件が整つていく。

ところが地球ではこの生物質量自然発生の法則にいたらない。なぜか。どの宇宙でも時空間にあるものしかない。知性は源は時空間であり呼吸しないと成り立たないということを認識しない。なぜか、それは地球では権威が幅を利かすからだ。支配者は人を管理する。ところが本質は管理を超えているから皆が物事の本質で動くなら当然生物質量に気が付いてしまう。支配者はそこを恐れる。

国祖の周囲の賢者明哲は生物質量動植鉱物を国祖に言つたが国祖は生物質量動植鉱物に気が付かない。賢者明哲には分かつても別室部長には分からない。賢者明哲は本質で動いても別室部長は団体の団で動く。三五教が悪の型なのだ。だから悪が栄える。三五教がさきがけとなつて宇宙文明の扉を開けばよい。

2	2	2	
0	0	0	
1	1	1	
1	0	0	
年	年	年	
1	5	4	
月	月	月	
2	5	1	
3	日	0	
日		日	
修	修	作	
正	正	成	

後記